令和６(2024) 年度
高知大学
グローバル教育支援センター年報

2025 年 3 月発行

令和 6（2024）年度 年報目次

はじめに……1

１．グローバル教育支援センター基本方針

２．組織……3

(1) 組織図

(2) スタッフ

３．活動報告……4

3.1 セミナー・ワークショップ

(1) JICA 海外協力隊セミナー

(2) 海外留学ワークショップ（第 1 学期・第 2 学期）

(3) 海外留学フェア

(4) 協定校間特別セミナー（第 1 学期・第 2 学期）

3.2 海外派遣留学……10

(1) 海外留学説明会＆留学体験報告会（第 1 学期・第 2 学期）

(2) 留学準備モジュール

(3) 個別留学相談

(4) トビタテ！留学 JAPAN

(5) グローバル・エデュケーション・サポート・センター新聞

3.3 交流活動……15

(1) 大豊町における茶摘み体験（地域交流事業）

(2) 留学生歓迎イベント（第 1 学期・第 2 学期）

(3) 留学生見学旅行

(4) 大豊学園との交流 （1 回目・2 回目）

(5) 朝倉中学校との交流

3.4 留学生ガイダンス……25

(1) 留学生履修説明会（第 1 学期・第 2 学期）

(2) 留学生オリエンテーション（第 1 学期・第 2 学期）

(3) 帰国準備説明会（第 1 学期・第 2 学期）

3.5 受入れに関するリクルート活動……28
(1) 日本語学校訪問（in 大阪）
(2) 学校法人エール学園進学相談会（in 大阪）
(3) 関西語言学院進路相談会（in 京都）
(4) ジーベック外国人留学生のための進学相談会（in 岡山）
(5) ECC 国際外語専門学校進学説明会（in 大阪）
(6) 日本語学校訪問（in 東京）
(7) 四国国立 4 大学合同進学説明会 in 千駄ヶ谷日本語学校（オンライン）
(8) 四国国立 4 大学合同進学説明会 in 行知学園日本語学校（オンライン）

4．授業関連……34
4.1 グローバル教育支援センター開講日本語総合コース（第 1 学期・第 2 学期）

4.2 共通教育開講科目……46
(1) 地域文化理解（第 2 学期）
(2) サマープログラム（Japanese Studies I / II)
(3) 短期留学プログラム　（第 1 学期・第 2 学期）
(4) GEASC 共通教育科目コース
(5) IELTS/TOEFL/英検準 1 級対策コース（第 1 学期・第 2 学期)

5．その他……53
(1) 外国人留学生在籍状況
(2) 自律学習支援センター（OASIS）との連携
(3) スペイン語試験対策講座

参考資料……57
(1) 交流協定校一覧（大学間・部局間）
(2) 海外派遣学生一覧

奥付

はじめに

グローバル教育支援センター長　今井 典子

グローバル教育支援センター（Global Education and Advancement Support Center）は、高知大学が掲げる「高知大学 Grand Design 2030」の目標である「グローバル化：地域と世界を繋ぎ、未来を拓く国際人材の育成」を具現化するために 2022 年 10 月に設立されました。そして、本センターは特に、教育の視点からキャンパスの国際化を推進し、国際的な視野を持つ人材の育成を目指しています。

2024 年度を振り返ると、海外協定校からの受入れ、そして海外協定校への留学がコロナ禍前に戻りつつあった 2023 年度と比較して、特に高知大生の留学希望者が増加し、学生の留学への関心がより高くなったと言える年でした。本年度も、第 4 期中期目標・中期計画（2022 年度～2027 年度）の実現に向けて、センターのミッションでもある留学促進に向けた様々な取り組みを実施してきました。具体的には、留学説明会、留学フェア、留学ワークショップ、協定校間特別セミナー、危機管理セミナー、カルチャーカフェなど、学生の留学を支援するイベントを幅広く実施しました。また、自律学習支援センター（OASIS）との共催で語学力向上プロジェクトやグローバルキャリアセミナーを開催し、学生一人ひとりに対して丁寧な支援ができるように取り組みました。また、留学相談件数が増加したことを受け、日本人教員 2 名による対応体制を強化しています。さらに、昨年度再開したサマープログラムを本年度も実施し、海外協定校から多くの学生を迎え、本学学生との交流を通じて異文化理解を深める場を提供することができました。「長期の海外協定校留学につなげる」、「協定校留学を希望しない短期留学希望者のニーズに応える」ことを目的として提供している学生短期留学プログラム（Short-term Study Abroad Program）には 39 名の学生が申し込みをし、留学に対する関心の高まりを実感しています。

留学生の受入れに関して、留学生の日本語学習支援を目的に 3 キャンパスに日本語総合コースを開講し、日本語初級から日本語中上級のクラスを設け、多様なニーズに対応したクラスを提供しています。また、協定校との遠隔授業や協定校間特別セミナー、ビジネス講演会、見学旅行の実施等を通して、留学生の日本文化や地域文化への理解を促進し、協定校との連携を強化してきました。さらに、共通教育において、留学生を対象とした日本語科目や「地域文化理解」を開講し、留学生と日本人学生との国際共修による課題解決型授業を実施しています。また、大学や大学院への進学実績がある大阪、岡山、東京にある日本語学校訪問や説明会に積極的に参加し、広報活動を行いました。

2025 年度に向けて、引き続き留学促進に向けた取り組み、海外からの優れた留学生の受入れの促進（リクルート）、留学生と高知大生との交流イベントの開催を継続させるとともに、より充実させるため内容を検討していきたいと考えています。2024 年度は、東南アジアにある協定校への留学に関心を持つ学生が増えていますが、本学との協定校数が多い、中国、台湾、韓国への留学希望者

数が少ないため、学生に十分なる情報提供をし、留学を促進していくよう取り組んでいきます。また今後は、海外協定校留学の参加にもつながるセンター提供の Short-term Study Abroad Program に加え、Short-Term Volunteer Abroad Program を新規科目として追加して学生のニーズに合うように進めていきたいと考えています。

一人ひとりの留学希望者を支援するために、また、正規生や協定校からの留学生への支援を充実させるためには、各学部・専攻での専門教育における海外派遣や交流事業、共通教育における英語科目の充実など、学内での連携を強化しつつ進めていく必要があります。多様な言語・多様な視点を持つ海外からの留学生と本学学生との交流を促し、キャンパスの国際化に貢献していきたいと考えています。

1.グローバル教育支援センター基本方針

センターの基本方針は大きく以下の 3 点である。

(1) 海外との教育交流の推進によるキャンパスの国際化

国際的な学生交流を推進、そして外国人留学生と日本人学生との交流を通して、互いに学びあうキャンパスを創造し、キャンパスの国際化を実現する。

(2) 外国語教育プログラムや学生の海外派遣の支援体制の充実による「希望者全員留学」の実現

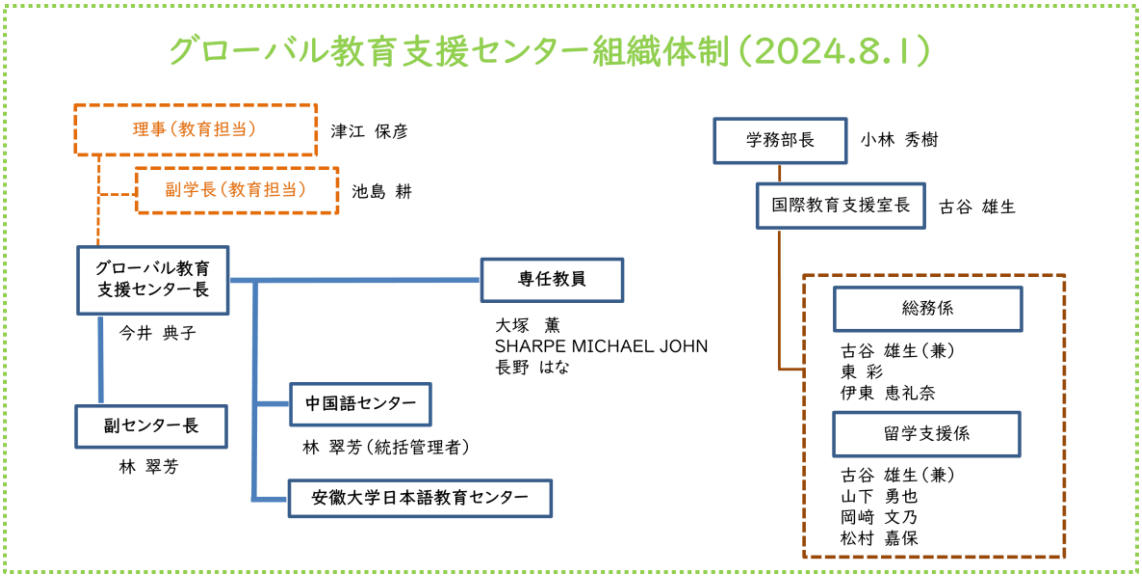
英語をはじめ外国語の語学力向上のための講座提供の充実を図るとともに、留学相談により日本人学生の海外留学支援を行う。また、留学フェアやワークショップ、セミナーの開催などにより留学への意識を高める。

(3) 海外からの優れた留学生の受入の促進と留学生に対する日本語教育の充実

留学生の獲得に当たっては、協定校からの短期留学のみならず、私費留学生、国費留学生など長期留学生を積極的に獲得する。留学生に対しては、修学上及び生活上の指導助言を行なう。また、外国人留学生に対する日本語・日本文化・日本事情に関する教育を行う。

2. 組織

（1） 組織図



（2）スタッフ

副学長（教育担当）	池島 耕
グローバル教育支援センター長	今井 典子
副センター長	林 翠芳
専任教員（教授）	大塚 薫
専任教員（准教授）	SHARPE MICHAEL JOHN
専任教員（特任助教）	長野 はな
[学務部国際教育支援室]	
国際教育支援室長	古谷 雄生
[国際教育支援室総務係]	
国際教育支援室総務係長（兼）	古谷 雄生
国際教育支援室総務係員	東 彩
国際教育支援室総務係事務補佐員	伊東 恵礼奈
[国際教育支援室留学支援係]	
国際教育支援室留学支援係長（兼）	古谷 雄生
国際教育支援室留学支援係員	山下 勇也
国際教育支援室留学支援係員	岡崎 文乃
国際教育支援室留学支援係事務補佐員	松村 嘉保

３．活動報告

3.1 セミナー・ワークショップ

（1） JICA 海外協力隊セミナー「国際協力　はじめの一歩」

5 月 15 日（水）15 時 00 分～16 時 20 分、朝倉キャンパスにおいて、本学学生を対象にセミナー「国際協力　はじめの一歩」を開催し、9 名の学生が参加した。国際協力機構（JICA）海外協力隊としてカンボジアに派遣された下司政代さんを講師に招き、カンボジアの病院で看護師としてボランティアをした経験についてお話しいただいた。たくさんの動画や写真などを交えながら、カンボジアの人々と共に働いた経験、日本と異なる文化・習慣の中で働くということなど、とても興味深い内容の講演に、参加学生は聞き入っていた。また、海外協力隊の制度や応募方法について、青年海外協力協会（JOCA）の山本さんより説明があった。実施後のアンケートでは、参加学生から「将来についてよく考えることができた」「これからの人生でやりたいことが出てくると思うので、それとJICA の職種を結びつけられたらと思う」といったコメントがあり、セミナー参加を通じて将来のキャリアについて考える貴重な機会となった様子だった。

会場の様子

セミナーの様子

セミナーの様子

(2) 海外留学ワークショップ（第 1 学期・第 2 学期）

グローバル教育支援センターは、毎学期、海外留学に向けて具体的な準備を進めたい学生を対象に海外留学ワークショップを開催しており、2024年度は下記日時で計4回実施した。人文社会科学部・橋本由紀子先生が講師を務め、第 1 学期の参加者は 23名、第 2 学期の参加者は 12名だった。参加した学生からは、「不明確だった留学のスケジュールの大まかな計画がわかってイメージしやすくなり、とても良かった。また、他の人と意見を共有することでどんな目的で留学に行くのかが知れて勉強になった」、「他の参加者との交流で刺激を受け、自分ももっと頑張らなくてはと思える良い機会になった」といった感想が聞かれ、留学実現に向けて有意義な時間となった様子であった。

・第 1 学期開催分

【開催日時】第 1 回：6 月 19日（水）15:00～16:20、第 2 回：6 月 26日（水）15:00～16:20

第 1 回では、参加学生は、本学次世代地域創造センターの佐藤公平特任教授から、国際協力機構（JICA）の活動や自身の留学体験、国際協力の現場で求められている人材像についての講演を聞き、グループワークを通じて希望の留学先や留学の目的、実現に向けたハードルなどについて話し合った。第 2 回では、マレーシアの留学生から、日本への留学に際しどのような計画を立て、準備を進めたのかについて聞き、留学計画の立て方などについて学んだ。

・第 2 学期開催分

【開催日時】第 1 回：11 月6日（水）15:00～16:20、第 2 回：11月13日（水）15:00～16:20

第 1 回では、第 1 学期と同じく佐藤特任教授の講演を実施した。講演後、参加学生は、グループに分かれ、それぞれの希望の留学先や留学の目的などについて話し合った。第 2 回ではマレーシア、韓国、インドネシア人学生から、それぞれ日本へ来る前にどのような留学計画を立てたのか話を聞いた。ワークショップ終了後、参加した留学生と日本人学生間で、留学の際にきっと役に立つであろう連絡先の交換などネットワークづくりを早速実施していた。

留学計画の立て方について意見交換

留学計画の立て方について話す留学生

（3）海外留学フェア

時間：2024 年 4 月 24 日(水)13:10-16:20
場所：朝倉キャンパス共通教育棟 2 号館

時間：2024 年 10 月 29 日(火)14:50-16:20
場所：朝倉キャンパス共通教育棟 3 号館

海外留学フェアにおける学生のプレゼンテーション

概要：海外留学フェアは、短期・長期留学、トビタテ！留学 JAPAN、青年の船などのプログラムを学生に周知・促進することを目的として、前期と後期に朝倉キャンパスで開催された。4 月に開催された第 1 回目のイベントには、30 名の学生が集まった。センターのスタッフは午後から会場に待機し、情報やアドバイスを提供した。また、参加者は留学経験者のプレゼンテーションを聞いた。10 月に開催されたイベントは、キャンパスのあまり目立たない場所であったためか、参加者はそれほど多くなかった。今後のイベントを計画する際には、良い場所を確保することが重要な検討事項となる。全体として、今年度は海外留学プログラムへの参加者が増加しており、海外留学フェアのようなプロモーション活動は、参加者をさらに増やすための有効な手段である。

資料：海外留学フェア案内

資料：海外留学フェア案内

(4) 協定校間特別セミナー（第 1 学期・第 2 学期）

＜第 1 学期開催＞

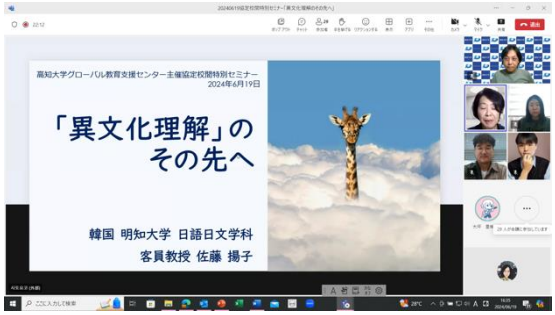
《異文化理解のその先へ》

講師：明知大学校　佐藤　揚子　客員教授

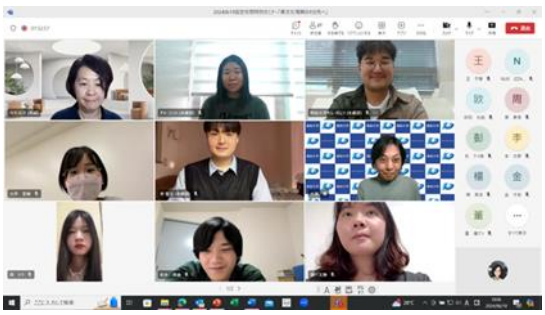
2024 年 6 月 19 日(水)に、高知大学グローバル教育支援センター主催の協定校間特別セミナーが行われた。講師には、韓国の協定校の明知大学校日語日文学科の佐藤揚子客員教授をお招きし、「異文化理解のその先へ」というテーマで学生とやりとりをしながら講義が行われた。今回のセミナーは韓国から佐藤先生に接続していただき Microsoft teams 上で行ったが、高知大学の留学生ならびに日本人学生のほか、海外の協定校である韓国の明知大学校の学生にもアクセスいただき、合計 30 名ほどの参加となった。

セミナーは、様々なバックグラウンドを持つ人と接する機会が増えてきた多文化共生社会において日本と韓国の身近な事例を比較し、文化やコミュニケーションの特徴について考えてみるという目的で行われた。また、セミナーでは具体的に日本と韓国の文化やコミュニケーションの特徴についてケーススタディをしながら参加した学生がそれぞれ相互理解のために大切なことを再考し、自文化を客観的に捉える貴重な機会となった。

参加した方々からは「日本の中でも文化や価値観が違うことは多々あるので、一概に文化や国民性で一括りにしてはいけないと思った。韓国に対する興味が湧いてきたので韓国の人と交流したいなと思った」、「異なる文化を理解することの重要性だけでなく、その先にある共生や協力の可能性について深く考える機会となった。先生が自分の具体的な経験談を紹介することで、異文化交流の現場で直面する課題に対する有用なヒントとなり、大変参考になった。また、協定校の学生の発言を通じて、多様な視点から各国の文化差が理解できたことも貴重だった」、「異文化理解は、国と国とで文化の違いを理解しようとすることだと思っていたが、このセミナーを受けて、国内でもさまざまな文化の違いが存在し、国の違いよりも、普段からお互いに理解しようとする、認め合うことが大切だと考えた。多様性を尊重することは、障害の有無や個性だけではなく、文化にも共通することだと感じた。文化を理解し合い、認め合うためには、まずお互いの文化を知ることが必要であると思った」、「実際にその文化で生きている学生から聞くことで、なぜそのような文化が生まれたのかという点や、同じく異文化理解をしながら学習している仲間がいるという安心感が生まれた」、「偏見や思い込みがあることに改めて気づいたため、正しい知識を身に付けることが必要だと感じた」、「まだまだ日本の文化についての知識が浅いなと思った。相手の文化を理解することは、日本の文化を理解していることが前提にあるように感じるので、もっと学んでいかなければならない」等の感想が寄せられ、セミナーを通して充実した交流の時間が共有できたことを主催者として大変嬉しく思う。



セミナーの様子



オンライン参加の様子

＜第 2 学期開催＞

《外国語学習と生成 AI》

講師：釜山外国語大学校　三國　喜保子 助教授

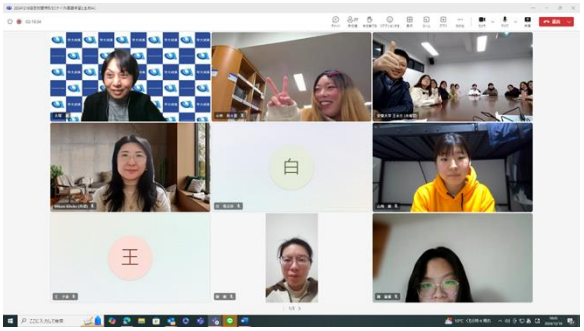
2024 年 12 月 18 日(水)に、高知大学グローバル教育支援センター主催の協定校間特別セミナーが行われた。講師には、韓国の協定校の釜山外国語大学校日本 IT 専攻の三國喜保子先生をお招きし、「外国語学習と生成 AI」というテーマで学生と相互交流をしながら講義が行われた。今回のセミナーは韓国から三國先生に接続していただき Microsoft teams 上で行ったが、高知大学の留学生ならびに日本人学生のほか、海外の協定校である中国の安徽大学からもクラス単位で参加していただき、合計 70 名ほどの参加となった。

セミナーは、効果的に外国語を学習するために生成 AI をどのように活用すれば良いかを考えてみるという目的で行われた。まず、参加者の生成 AI のイメージや利用頻度、利用目的などを確認した後、生成 AI の特長を学んだ。次に、実際の外国語学習につながる具体的な生成 AI の活用法として「単語・表現の学習」、「ライティング（作文）練習」、「リーディング（読解）練習」、「会話練習」、「文法説明・練習」の観点から実践的に学ぶ機会になった。最後に、生成 AI はあくまでも学習をサポートするための補助的な道具であり、様々な学習方法を組み合わせて使い方を学ぶこと、デジタルリテラシーを身につけることが重要であることを確認した。

参加した学生からは、「生成 AI の活用は、学習者に個別化された学習体験を提供し、翻訳や発音指導の精度向上に寄与する可能性があると感じた。一方で、AI への過度な依存が学習者の自主性を低下させるリスクについての議論も印象的だった。このセミナーを通じて、外国語教育と AI の未来に大きな可能性を感じるとともに、その倫理的課題にも向き合う必要性を感じた」、「今回のセミナーでは、生成 AI が提供する瞬時の翻訳や学習サポートは、効率的な学習ツールとして魅力的である一方で、人間の創造性や批判的思考をどう補完す

るかという課題も浮き彫りになった。また、異文化理解においては、単なる言語の正確性だけでなく、文脈やニュアンスを読み取る力が重要であると再認識した。今後、AI を活用しつつも、人間ならではの学びを大切にしたいと感じた」、「協定校の学生との交流も刺激的で、視野が広がる良い経験だった」等の感想が寄せられ、セミナーを通して充実した時間が共有できたことを非常に嬉しく思う。

セミナーの様子



オンライン参加の様子

3.2 海外派遣留学

（1） 海外留学説明会及び留学体験報告会（第 1 学期・第 2 学期）

グローバル教育支援センターは、留学に関する基本的な情報を学生に提供するため、海外留学説明会を毎学期実施している。2024年度は、4 月17日（水）及び 10 月 23日（水）に実施し、それぞれ 30 名、13名が参加した。説明会では、交換留学制度や短期プログラムなど在学中に留学する方法、留学に向けた準備などについて話した。また、説明会の中で、交換留学や短期留学プログラムに参加した学生による留学報告が行われ、参加者たちは留学生活の具体的な情報を得ることができた。

4 月に実施した説明会では、交換留学から帰国した 4 名の学生（アメリカ・ロードアイランド大学、台湾・東海大学、フィリピン大学、スウェーデン・イェーテボリ大学）がそれぞれ留学報告を行い、留学先の国、大学の様子、履修した科目や必要経費などについて話した。

10 月の説明会では、交換留学から帰国した学生 6 名（台湾・東海大学、アメリカ・カリフォルニア州立大学フレスノ校、ガーナ大学、チェコ・南ボヘミア大学、ノルウェー・インランドノルウェー応用科学大学、スウェーデン・イェーテボリ大学）による留学報告を行った。参加者は、説明会終了後も個別で質問を行うなど、留学実現に向けて具体的なイメージを持つことができた様子だった。

説明会会場の様子

海外留学報告 （10 月開催）

海外留学報告 （10 月開催）

（2） 留学準備モジュール

グローバル教育支援センターでは、交換留学や短期語学留学など海外留学を控えた学生を対象に、留学準備モジュール（SAP: Study Abroad Preparatory Module）を実施している。本モジュールは、海外留学に際し必要となる様々なスキルや知識を伝え、より充実した留学生活が送れるよう支援することを目的として実施している。2024 年度は各学期にそれぞれ以下の日程で実施した。

2024 年度第 1 学期（全4回）

	日時	テーマ	内容	参加人数
Session 1	5/29(水) 4, 5 限	異文化理解 WS	アクティビティなどを通じて異文化理解力をつけるためのワークショップ	10 名
Session 2	6/5(水) 4, 5 限	スキルアップ（英語）	・Presentation skill：英語でのプレゼンテーションに慣れる ・Social interaction:日常生活で使える表現	8名
Session 3	6/12(水) 4, 5 限	留学準備	・海外での危機管理（セミナー） ・個別面談（留学の目標設定など）	10 名
Session 4	6/19(水) 4, 5 限	出発前アセスメント	留学前後での語学力の伸びを図るためのアセスメントを実施	10 名

※Session2及び4のみ、留学先で英語を使用する学生を対象として実施し、台湾など非英語圏へ留学する学生は任意参加とした。

2024 年度第2学期（全 3 回）

	日時	テーマ	内容	参加人数
Session 1	11/27(水) 4, 5 限	異文化理解 WS	アクティビティなどを通じて異文化理解力をつけるためのワークショップ	7 名
Session 2	12/4(水) 4, 5 限	留学準備	・海外での危機管理（セミナー） ・個別面談（留学の目標設定など）	14 名
Session 3	12/11(水) 4, 5 限	留学のための実用英語	Communication skill and strategy：留学中に必要となる実用的な英語でのコミュニケーションスキル	4 名

※Session3のみ、留学先で英語を使用する学生を対象として実施し、韓国、メキシコなど非英語圏へ留学する学生は任意参加とした。また、留学前アセスメントは出発前に各自実施することとし、セッションは設けないこととした。

2024 年度の主な参加者は、同年度中に交換留学に出発する学生、共通教育科目「Short-term Study Abroad Program（短期留学プログラム）」履修者で、長期休暇中にフィリピン、韓国等に語学留学を予定している学生などであった。第 1 学期は、全4回実施し、合計 38 名、第 2 学期は全3回で合計 25 名が参加した。参加者の中には、初めて海外に行く学生もおり、本モジュールを通じて海外に行く際の心構えや実用英語など必須となるスキルを学んだ。また、交換留学に出発する学生を対象として実施した個別面談では、各学生の留学準備状況について聞き取りを行うとともに、留学の目標設定等を通じて留学中のモチベーションをどのように保つか、留学に際する心構えなどについて担当教員と話し合った。参加者は、留学終了後に再度アセスメントを行う予定であり、出発前アセスメントの結果と比較し、語学力の伸びや意識の変化を測る予定である。

（3） 個別留学相談

グローバル教育支援センターでは、海外留学に関心のある学生を支援するため、教員による個別留学相談を行なっている。学生は、国際交流ホームページにあるフォームから申込みを行い、30分から１時間程度、担当教員と１対1で面談を行い、留学に関する相談を行う。相談内容は、正課での留学（交換留学、短期プログラムなど）や私費留学など様々である。また、相談時に交換留学応募の語学要件に達していない学生も多くいるため、語学試験対策についての相談も行なっている。

2024 年度第１学期は、相談件数 48 件、相談人数 42 人、第２学期は相談件数 25 件、相談人数 23 人（1 月20日時点）であった。第１学期に相談に来た学生のうち、7 名が交換留学、6 名が短期留学プログラムに参加しており、学生が具体的な留学準備のためのステップとして留学相談を活用していることが窺える。留学希望先の傾向としては、昨今の円安、世界的な物価高の影響からか、アジア地域を希望する学生が昨年度より増加した。

学部別相談人数

	第１学期	第２学期
人文社会科学部	28 人	16 人
農林海洋科学部	8 人	3 人
医学部	1 人	—
地域協働学部	—	2 人
理工学部	3 人	1 人
教育学部	2 人	1 人

学年別相談人数

	第１学期	第２学期
１年生	17 人	9 人
２年生	21 人	10 人
３年生	1 人	4 人
４年生	3 人	—
大学院生	—	—

相談内容

	第１学期	第２学期
留学の基本情報について	9 人	4 人
正課での留学（交換留学・短期留学など）について	29 人	17 人
私費留学について	4 人	2 人

希望する留学先地域

（複数回対応の場合は第１回目相談内容に基づく）

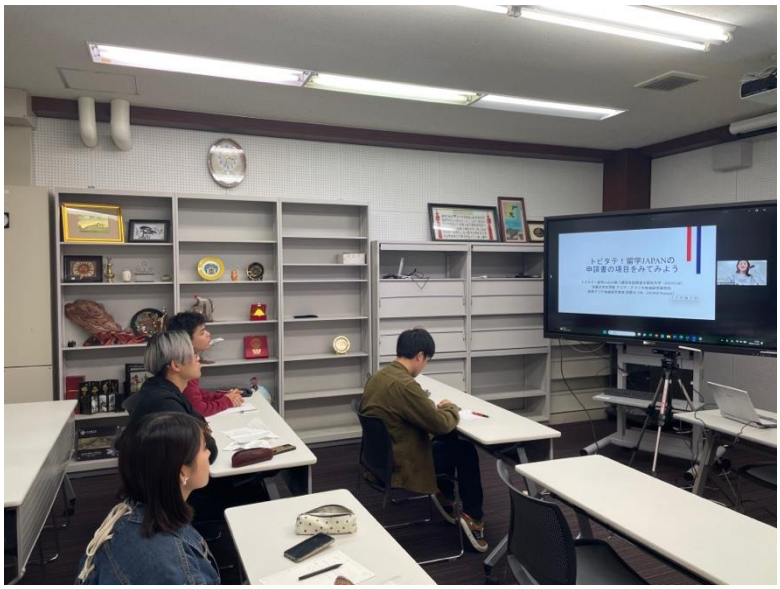
ヨーロッパ	北米	オセアニア	アジア	中南米	英語圏	複数地域	未定
16 人	1 人	0 人	29 人	1 人	6 人	9 人	3 人

(4) トビタテ！留学 JAPAN

グローバル教育支援センターでは、文部科学省の主催する留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」の新・日本代表プログラム（海外留学を希望する学生に返済不要の奨学金を支給）へ応募する本学学生へのサポートを行なっている。同プログラムの応募に際しては、留学計画の内容や書き方が重視されるため、説明会の開催やセンター教員による個別ブラッシュアップなどの支援を実施している。

2024 年度（第 16期）募集では、応募書類のブラッシュアップ、書類選考を通過した学生への面接指導などを複数回行った。その結果、医学部の学生 1 名が合格し、ガーナ及びフィンランドに留学した。

また、2025年度（第 17期）募集に向けて、2024年 11月 20日(水)に学内向け説明会をハイブリッド開催した。説明会では、センター教員によるプログラムや応募方法についての説明に加え、本学卒業生でトビタテ 10 期生としてラオスに留学した荻野なつれさんから応募書類の書き方についてオンラインで説明いただいた。第 17期募集では、7名の学生が応募予定で、センター教員による留学計画の個別ブラッシュアップを行なっている。



学内説明会の様子

(5) グローバル・エデュケーション・サポート・センター新聞

The Globe は、高知大学の学生と留学生が執筆する新聞である。より多くの学生に留学を促し、英語での執筆の機会を提供することを目的としている。留学体験や留学への思い、センター活動、新たな提携など、幅広いトピックをカバーしている。記事は英語と日本語の両方で書かれている。2024 年度版には、長期・短期留学プログラムに参加した学生による記事、GEASC 短期留学プログラムの韓国とフィリピンへの拡大、海外大学との新たな提携、2024 年の GEASC サマープログラム、日本での生活と学習を経験した留学生の体験談、留学生と教師へのインタビューなどが掲載されている。

The Globe

Per adnum, ad adnum — Newsletter of Kochi University Global Education and Advancement Support Centre — Spring 2025

Inside
- News
- Features
- Interviews

"Nobody can discover the world for somebody else. Only when we discover it for ourselves does it become common ground and a common bond and we cease to be alone."
— Wendell Berry

News and views from KU students at home and abroad

Globetrotters!

Highlights

CZECH MATE!
Momo TAMAI reports on her study program at the University of South Bohemia in the Czech Republic during 2024.
Page 2

CALIFORNIA DREAMING
4th Year Humanities major Kota IRAMINA spent a year in the US, studying at California State University Fresno. Read about his experiences on
Page 3

MALAYSIA MEMORIES
Ayaka SAIHARA describes her study abroad experiences in Malaysia on the Global Education Support Centre Short-Term Study Abroad Program
Page 6

2024 marked the continuation of the Kochi University Summer Study Program, organised and led by the staff of the Global Education and Advancement Support Centre. During July KU hosted 15 guests from our partners in the Czech Republic, Mexico, Thailand, the UK.and US. As well as studying Japanese and Japanese culture, participants visited different locations in Kochi to learn more about sustainable tourism initiatives.

STAFF

Chief editor: Michael SHARPE email: michaelsharpe@kochi-u.ac.jp
Editorial staff: Atsushi ADACHI . Yamato ISHIKAWA . Murni IRSALINABINTIMOHAMADZAIN . Shiori KOZAKI . Shiori ORIMI . Midori SUYAMA . Ayaka SAIHARA . Soma TAMAI.

新聞の紙面

3.3 交流活動

(1) 大豊町における茶摘み体験（地域交流事業）

2024 年 5 月 11 日（土）に、大豊町の地域の方や町役場等のご協力の下、26 名の留学生及び日本人学生が参加し、地域の方との交流とともに、地域伝統文化の体験活動（茶摘み体験）を行い、地域とのかかわりを深めた。当日は晴天に恵まれ、楽しくそして順調に茶摘みの作業ができた。茶摘み作業終了後、活動場所を立川刈谷多目的集会所に移し、集落活動センター「そばの里立川」立川地区活性化推進委員会の吉川会長より、「日本におけるお茶の歴史」のテーマで、お茶の種類や作り方、お茶の産地等についてご紹介いただいた。その後、摘み立ての茶葉を釜で炒る作業、専用の機械で炒った茶葉を揉む作業、そして板の上に揉まれたお茶の葉を手で拡げて、乾燥しやすいように並べる作業をグループごとに体験した。昼食は地元で採れたエゴマ等の食材をふんだんに使った地元住民手作りのお弁当を堪能し、昼食後、6グループに分かれて地元の方へのインタビュー活動を行い、地域の方との相互理解、相互交流を深めた。また、インタビュー活動後、本学教育学部の福住先生と大坪さん（2 年生）からけん玉の紹介とともに技を披露していただき、参加者のみなさん、地元の方々もけん玉等を体験し、拍手や喝采で会場が大変な盛り上がりを見せた。その後、旧立川番所書院を見学し、書院の歴史について学ぶ機会を得た。

本活動に参加した留学生及び日本人学生からは、下記のような感想が寄せられた。

<お茶摘み体験>

・普段身近にありながらその製造工程や栽培方法などを詳しく知らなかったため、お茶摘み体験を通して身近なものについてより深く知れる新鮮さと喜びを感じた。
・お茶摘みというシンプルな行為でも、茶葉を摘み取る過程や、やり方、立地など様々な工夫と知識が組み込まれていることに感心させられた。
・初めてのお茶摘み体験を通して、楽しさと同時にお茶摘みの大変さを学んだ。また、今回お茶摘みを受け入れてくださった方が、私たちのためにお茶の葉を入れる籠を作ってくださったことを聞き、地域の繋がりと優しさを感じた。

<お茶作り体験>

・お茶をどのように作るのかを知らなかったのでそれを体験できたのは貴重な体験だった。茶葉を炒る作業は思っていたより体に負担のかかる作業だった。
・摘んだ茶葉を炒って香りをかみしめて、お茶作りの満足感を味わった。楽しかった。
・お茶の葉を乾燥させるところまでやらせていただいてお茶の製法、お茶を揉んで発酵させるというのがとても興味深かった。

<お茶についての講義>

・毎日飲んでいるお茶の歴史などについて学ぶことができた。特に、緑茶、ウーロン茶、紅茶は同じ茶葉でも発酵をどの程度するのかによって変わることは興味深いと思った。
・お茶の違いが発酵の回数や期間が起因していることを初めて知ることができた。わかりやすく写真や図が示されていて聞いている方を飽きさせないような工夫がなされていてすごいなと感じた。
・お茶の種類とその由来、歴史や語源などについてのお話がとても興味深く印象に残っている。これから、何気なくお茶を見るのではなく今回のお話を思い出しながらお茶を味わいたいと思う。

＜インタビュー＆地域の方との交流活動＞

・大豊町の魅力や独特の文化について学ぶことができた。地元の方々の熱い大豊町への思いが今も自然豊かな大豊町を守っていると感じた。また、昔どのような遊びをしていたのか、昔当たり前だと思っていたことを知ることができて面白かった。

・地域の方々との交流で地域の現状を知ることができ、状況を把握することができたと思う。また、地域の方々との交流で自分の日本語能力も結構伸びると思う。

・地域を、少子高齢社会や人口減少の視点だけでなく、幸せとは何か、地域の生命力や団結力といった視点から捉えなおすことができ、地域は困難に陥っているというだけではなく、そこに住む人々がのびのびと生きることのできる場であるという、多面的な見方が出来るようになった。

＜旧立川番所書院見学＞

・立川番所の見学では、案内してくださった方の歴史に対する造詣の深さに驚いた。人が蓄えることのできる知識量の多さを実感し、様々な知識の継承が途絶える前に、積極的に知識を保存したり継承する方法を考えたりすることは人類にとってとても有益なことなのではないかと感じた。

・歴史的な建造物の中に、私は静かさの中に柔らかさを感じた。それは木の温もりや自然を一望できる縁側によるものから生まれる感覚なのかなと感じた。全てを完璧に読み取ることができたかはわからないが、土佐日記の引用を使った説明などがわかりやすく、おもしろい経験だと感じた。

・伝統的な日本家屋に行くのは初めてであった。初めて見る畳にとても興奮した。どのように家が建てられているのか興味がある。

茶摘みの様子

「日本におけるお茶の歴史」について講義中

地元の方へのインタビュー活動

旧立川番所書院前で集合写真

(2) 留学生歓迎イベント

<第1学期>

2024 年 4 月 10 日（水）に4月に高知大学に到着した13名の交換留学生や研究生を歓迎するため、学生有志の主催で交流イベントを実施した。新たに来日した交換留学生に加え、すでに高知大学で学んでいる留学生、日本人学生を含め参加者は計 40 名ほどであった。参加者はよさこい体験、キャンパス内とその周辺の散策、けん玉などの日本文化体験など多様なアクティビティを通じて交流を深めた。

交流イベントの様子

集合写真

高知大学よさこいチーム「粋恋」のよさこい踊り体験

よさこい体験

集合写真

<第2学期>

2024 年9月30日（月）に9月に高知大学に到着した24名の交換留学生や研究生を歓迎するため、学生有志の主催で交流イベントを実施した。新たに来日した交換留学生に加え、すでに高知大学で学んでいる留学生、日本人学生を含め参加者は計50 名ほどであった。参加者は自己紹介

ゲーム、よさこい体験、折り紙、けん玉などの日本文化体験など多様なアクティビティを通じて交流を深めた。

自己紹介ゲーム

よさこい体験

よさこい体験

折り紙体験

けん玉体験

集合写真

(3) 留学生見学旅行

2024 年 11 月 16 日（土）に高知大学に在籍している外国人留学生を対象に見学旅行を高知大学の日本人学生との交流も兼ねて実施した。留学生 37 名、日本人学生 9 名、引率教職員 3 名が参加した。当日はあいにくの雨と山中の深い霧で予定していた四国カルストへの見学はかなわなかったが、代わりにカルストテラスに訪問させていただき、館内の展示とともに四国カルストについての映像を視聴し、地形の形成等について理解を深めことができた。その後、梼原町に向かい、昼食を挟んで午後の梼原町内の散策はグループごとに行った。今回の活動を通して、地域文化への理解に繋がっただけでなく、活動時は勿論のこと、バス乗車中も留学生同士の交流、留学生と日本人学生の交流が多くみられ、相互理解を深めるよいきっかけづくりになったのではないかと思われる。

参加した留学生等からは、下記のような感想が寄せられ、大変有意義な見学旅行並びに日本人学生との交流活動となった。

＜四国カルストについて＞

・四国カルストの訪問日はあいにくの雨と霧のため、カルスト台地全体の景色を楽しむことができなかったことが少し残念だった。それでも霧の中で見た風景には幻想的な美しさがあり、晴天の日とはまた違う魅力を感じた。カルストテラスでは、地域の自然や地質について学べる展示があり、このエリアの成り立ちや環境について理解を深めることができた。地元の文化や自然環境を学ぶ良い機会となった。(留学生)

＜留学生と日本人学生の交流活動について＞

・留学生と日本人学生との交流活動は、異なる文化や価値観を共有し合うというよりは、日本文化の再確認の場でもあり、自分の考えを広げる良いきっかけになったと感じている。当初、日本の学生はもっとフォーマルな方が多いと思っていたが、実際に話してみると意外にも親しみやすく、会話がしやすい人が多かったため、とても楽しく交流することができた。この活動を通じて、異文化交流の楽しさや意義を改めて実感した。これからも積極的に他者と交流し、自分の視野を広げていきたいと強く思っている。交流の時間は短いものだったが、非常に充実した体験であった。(留学生)

・しばらく学生の活動に参加していなかったが、今回参加して、いろいろな国から来た人たちと出会い、彼らが学んでいることや取り組んでいる素晴らしいことを知ることができて、とても良い経験だった。これから最後の学年を頑張って終え、私も素晴らしいことを成し遂げたいというモチベーションが湧いてきた。また、他のキャンパスの学生たちと一緒のグループになれたことも嬉しかった。以前から交流したいと思っていたので、とても良い機会になった。(留学生)

・英語や日本語を交えながらお互いの国や文化について交流したり、日本での生活についてどのようなことを感じているのかを聞いたりすることができた。普段の学生生活では留学生との交流はほぼなかったためお互いこのように積極的にかかわりを持とうとする人がいることが新鮮であった。また、私のつたない英語でも通じたことが純粋にうれしかった。（日本人学生）

・まず、このようにたくさんの国から高知大学に留学生が来ていることに驚いた。同じ学部ですら留学生との交流がなかったためただ単に一緒に話すだけでも楽しかった。彼らからも特に日本語

が苦手な留学生は日本人学生と話すことがないということを聞いたため今後このようなイベントに積極的に参加したいと思う。(日本人学生)

<留学生間・日本人学生間の交流について>

・留学生間の交流では、同じように日本で学び生活している仲間と、共通の経験や課題について話し合うことができた。それぞれの国や文化の違いを共有しながらも、似たような目標や悩みを持っていることを知り、とても親近感が湧いた。この交流を通じて、異なるバックグラウンドを持つ留学生同士が集まることで、個々の経験が豊かになることを改めて実感した。(留学生)

・留学生間の交流で学んだことは、国と国が違うことで幅広く思考する能力を持つことが出来ることだ。特に、見た目で判断せずに交流することで、他の国に対する認識が変わった。(留学生)

・他学部の学生とのかかわりが特に農学部では少なかったため、非常に貴重な機会となった。さらに国際的なイベント、交流会に興味がある者同士として今後も交流を続けていきたいと感じる。(日本人学生)

<椿原町散策について>

・椿原町での散策は、自然と建築が調和した町の魅力を深く感じることができる時間だった。特に印象に残ったのは「雲の上の図書館」だ。隈研吾氏の設計による木の温もり溢れる空間は、とても居心地が良く、木材の魅力を活かした建築だと思った。図書館に展示されている様々な展示物も興味を引くものが多かった。今回の散策を通じて、地域の文化や自然、そして建築の素晴らしさを学ぶことができた。椿原町は、現代的なデザインと伝統的な自然が調和する特別な場所であり、また訪れたいと思う。(留学生)

・椿原町は思った以上に異国情緒あふれる風景だった。そして、人々は初対面でも挨拶する独特な文化も残っていて面白かった。(留学生)

・椿原町の散策では、神社での参拝方法や伝統的な建造物「雲の上の図書館」など、さまざまな見どころを通じて留学生がどのような場所に興味を持つのかを知ることができ、とても興味深い経験だった。(日本人学生)

カルストテラスにて集合写真

椿原町維新の門にて集合写真

(4) 大豊学園との交流

<第 1 回>

2024 年 7 月 11 日(木)に、大豊町立大豊学園 9 年生(中学 3 年生)12 人が実践的な英語教育の一環として高知大学を訪れ、本学の留学生 5 名と英語で交流した。今回の活動は、本学の留学生との英語交流の経験により英語表現力を高める機会とするとともに、異文化に触れる経験を通して国際理解を深めるという目的で行われ、スウェーデンからオリヴァーさん、グスタヴさん、マレーシアからフダさん、ダヤンさん、インドネシアからヘルミナさんが交流会に参加した。

今回は 3 回目の交流となったが、夏休みにオーストラリア研修に行く際に大豊町の紹介をそれぞれの生徒がするので、5 名の留学生を囲んで小グループに分かれて 8 分間ずつ自己紹介や大豊町に関するプレゼンをし、それについてグループメンバーで英語で語り合った。8 分経過した後、次のグループに移動しプレゼンと話し合いをしあい、5 回のグループ活動が行われた。大豊学園の生徒からは「日本一の大杉さん」や「土佐のお殿様も泊まった立川番所」、「ラフティングができる吉野川」、「風と遊ぶゆとりすとパーク」など地元の大豊町の紹介があり、グループを移動するごとに皆表情が柔らかくなり、自信を持って英語で発表している様子がうかがえた。大豊学園の生徒からは「オーストラリア研修に向けて自分が準備してきたものが紹介でき、自分のプレゼンの不十分なところが分かった」、「YouTube に大豊町の英語での紹介動画を上げるので、指摘された箇所を改善したい」、「プレゼンは緊張したけど楽しかった」という声が聞かれ、さらに練習していきたいという意欲が感じられた。

留学生からも「自分の出身地である大豊町についてよく調べてきており、質問にも丁寧に答えてくれ感心した」、「生徒さんが大豊町のことを紹介してくれ勉強になった。紹介されたものの中で興味がある部分は質問をし、生徒さんのプレゼンにも貢献できた」、「YouTube に大豊町の紹介動画がアップされたら、ぜひ見てみたい」という感想が寄せられた。皆それぞれが異文化を知るきっかけになり交流が深められ、充実した時間を過ごすことができた。

交流会の様子

グループ活動

グループ活動

集合写真

＜第２回＞

2024 年 11 月 18 日（月）に、大豊町立大豊学園８年生(中学２年生)14 人が実践的な英語教育の一環として高知大学に訪れ、本学の留学生４名と英語で交流した。今回の活動は、本学の留学生との英語交流の経験により英語表現力を高める機会とするとともに、異文化に触れる経験を通して国際理解を深めるという目的で行われ、マレーシアからイザットさん、ネパールからスレスさん、ラツァナさん、インドネシアからアグラさんが交流会に参加した。

まず、大豊学園生徒による英語での大豊町の観光地、特産品、大豊学園の概要や学校行事、クラブ活動に関する紹介があり、留学生は日本の中学校や大豊町での生活について興味深く耳を傾けていた。

その後、イザットさんからマレーシアの多様性についての紹介があった。冒頭マレーシアの旗やマレーシアの位置についてクイズが出されたが、正解率はそれほど高くなかった。そして、マレーシアはマレー系と中華系、インド系の人々により社会が構成されており、言語や宗教、食べ物などの文化が異なるが、英語が共通語なのでマレーシア人は英語が話せるとの説明があり、皆感心していた。

続いて、スレスさんとラツァナさんによる「ネパールはどこにあるのか」から始まるネパールの概要と自然についての紹介があった。ネパールは世界で一番高い山「エベレスト」があり、仏陀が生まれた場所で、旗は世界でも珍しい特徴的な三角の形をしていることが紹介され、皆驚いていた。また、自然が豊かで美しく、珍しい動物を象に乗って見にいくツアーや滝下りをするラフティング、自然の中でのバンジージャンプなどが紹介され皆興味深い様子であった。

最後に、アグラさんによるインドネシアの概要と文化についての紹介があった。最初にインドネシアの旗や位置を中学生に当ててもらったが、ヒントにより見事に正解し盛り上がった。インドネシアは 1,300 の民族により構成され 718 言語が話されており地域により特徴的な気候や習慣、文化が発展しているとの説明に皆興味津々だった。また、インドネシアの人々は生活が苦しくても笑顔を絶やさず、周りの人々と助けあいながら生活しており、学校や仕事が終わってから皆で集まって食事やスポーツ観戦をするのが習慣になっているとの紹介に皆興味深く頷いていた。

それぞれの発表が終わった後、4 名の留学生を囲んで小グループに分かれて 10 分間ずつ自己紹介や発表に対する質疑応答、「将来の夢」についてグループメンバーで英語で語り合った。10 分経った後、次のグループに移動し質疑応答と話し合いをしあい、4 回のグループ活動が行われた。グループを移動するごとに皆表情が柔らかくなり、自信を持って英語でコミュニケーションが取れる様子がうかがえた。そして、交流会が終わりを迎える頃には皆すっかり打ち解けており、大豊学園の生徒からは「コミュニケーションが取れて楽しかった」、「もっと英語で交流したい」、「マレーシアやネパール、インドネシアに行ってみたい」という声が聞かれ笑顔が溢れていた。

留学生からも「皆最初は恥ずかしがっていたが、英語での交流を楽しんでいて短い時間だったが、とても楽しかった」、「次回はぜひ大豊町に訪れてみたい」という感想が寄せられた。皆それぞれが異文化を知るきっかけになり交流が深められ、充実した時間を過ごすことができた。

大豊学園生徒の発表

マレーシア学生の発表

ネパール学生の発表

インドネシア学生の発表

グループ活動

グループ活動

(5) 朝倉中学校との交流

2025 年 2 月 2 日（日）に朝倉小学校区青少年育成協議会主催による朝倉中学校の生徒を対象にした料理教室が、朝倉ふれあいセンターにて開催された。今回のテーマは「中国料理に挑戦！」で、本学の中国からの留学生、蘇罡さんと閻格格さんが講師に招かれ、「レモン風味の手羽先焼き」、「牛肉の黒コショウ炒め」、「トマトと卵の中華炒め」、「ジャンボワンタン」の作り方を指導した。朝倉中学校の生徒たちは、料理の作り方の説明に熱心に耳を傾け、レシピを見て質問しながら一品ずつチャレンジした。料理はなかなかの出来栄えで、参加者一同で味わった。中学生からは「貴重な異文化体験ができて大変うれしく思う」、「来年も是非参加したい」、「レシピを見ながら早速、家でも作りたい」等の感想が寄せられた。

当日は中学校の生徒たちだけでなく、朝倉中学校の先生及び青少年育成協議会のメンバーも参加され、総勢 23 名の参加となり、食を通じて国際交流、異文化理解を図ることができた。

料理を通じた交流の様子

完成した中国料理

3.4 留学生ガイダンス

(1) 留学生履修説明会

日時:(第 1 学期)2024年 3 月 28 日(木)
　　(第 2 学期)2024年 9 月 19 日(木)

概要:グローバル教育支援センターで開講している日本語授業を受講するためのプレースメントテストを受ける前に、交換留学生対象の履修説明会が行われた。留学生を対象としている日本語関係の授業であるグローバル教育支援センター開講の日本語総合コースや共通教育日本語・日本事情科目、教育学部・人文社会科学部の専門科目を中心に詳細な説明がなされた。

　また、授業科目の受講登録の方法や受講時の留意点、シラバスの検索方法等を紹介し、履修登録に関する質問を受け個別相談にも応じた。留学生は渡日したばかりで緊張した面持ちで真剣に説明を聞いていたが、積極的に質問をする学生も見られ留学生活に対する期待感が感じられた。

会場の様子

（2） 留学生オリエンテーション（第1学期・第2学期）

日時：（第1学期）2024 年 3 月 29 日（金）、4月 1 日（月）
（第2学期）2024 年9月19 日（木）、9月 20 日（金）、9 月 27 日（金）

概要：新入留学生オリエンテーションを第1学期は 3 月 29 日(金)と4月 1 日(月)、第2学期は9月19 日(木)、20 日(金)、27 日(金)に実施した。各回の内容は下表のとおりである。また、オリエンテーションに合わせて歓迎イベントを開催し、新入留学生と在来留学生、日本人学生が情報交換するなど懇親を深めた。

第1学期
第1回目（3 月 29 日） 〇グローバル教育支援センター教員紹介 〇保険管理センターからのお知らせ 〇学び創造センターからのお知らせ 〇高知大学生活協同組合からの案内 第 2 回目（4 月 1 日） 〇情報セキュリティ講習 〇学生グループ「国際茶屋」の紹介 〇留学生活についての諸注意 〇自立学習支援センターの紹介
第2学期
第1回目（9月19 日） 〇学び創造センターからのお知らせ 〇高知大学生活協同組合からの案内 〇自立学習支援センターの紹介 第2回目（9月 20 日） 〇保険管理センターからのお知らせ 〇留学生活についての諸注意 第 3 回目（9月 27 日） 〇グローバル教育支援センター教員紹介 〇情報セキュリティ講習 〇防犯・交通マナー教室：高知南警察署

(3) 帰国準備説明会（第1学期・第2学期）

日時：（第1学期）2024 年 6 月 26 日（水）
　　（第2学期）2025 年1月15 日（水）

概要：

留学期間を終えて帰国する交換留学生を対象とした帰国準備説明会を開催した。

国際教育支援室担当職員から、学内手続き関係（帰国後の連絡先、貸出物の返却など）、市役所での手続き（住民票転出届及び国民健康保険証の有効期限変更）、銀行等での手続き（銀行（郵便局）口座の解約）、住居の手続き（宿舎等退去手続き、部屋の点検、家賃支払い、電気・ガス・水道代・インターネットの解約と支払い、部屋の片づけ、ゴミの分別・処分）、携帯電話の解約、在留カードの返還など、帰国前に留意しておいてほしいことについて、丁寧に説明を行った。また、今後の留学生支援に活かすため、修学や生活上の良かったことや困ったことなどについてアンケートを実施した。

最後に国際教育支援室から、留学終了後も帰国留学生ネットワークの活動やホームページ、Facebook などを通して、高知大学とのつながりを継続してほしいと伝えた。

3.5 受入れに関するリクルート活動

(1)　日本語学校訪問（in 大阪）

日時:6 月 24 日(月)10:00-11:00
訪問先:ヒューマンアカデミー日本語学校大阪校
対応者:朝野　あゆみ先生(大阪校副校長兼教務主任)
　　逸崎　綾先生(大阪校副主任、進路担当)

日時:6 月 24 日(月)13:00-14:00
訪問先:ECC 国際外語専門学校
対応者:村上　抄子先生(国際コミュニケーション学科　進路課　主任教員)
　　森　夏樹先生(国際コミュニケーション学科　進路課)

日時:6 月 24 日(月)15:00-16:00
訪問先:ISI ランゲージスクール大阪校
対応者:西山　奈津美先生(教務部)

概要:高知大学の大学紹介並びに入試に関して説明を行った。また、各日本語教育機関の教育方針や学生の進学先についても情報を収集した。

(2)学校法人エール学園進学相談会（in 大阪）

日時：2024 年 6 月 25 日（火）
概要：学校法人エール学園が主催する 2024 年度留学生進路オリエンテーションに大学 26 校、専門学校 14 校が参加し、エール学園応用日本語学科、日本語教育学科に在籍の留学生を対象に説明会が行われた。高知大学の会場において私費留学生募集要項等を配布するとともに、高知大学の教育組織、教育内容、入学試験、その他大学の特色等について説明するとともに、進学希望者からの質問に対応した。質問としては、申し込み時の成績の書類についてコピーも可能かどうか等の質問があった。興味のある学生に 8 月 3 日(土)・4 日(日)に開催されるオープンキャンパスに参加してほしい旨を周知した。当日、本学の会場に訪れた留学生は 72 名であった。

エール学園校長先生ご挨拶

高知大学会場の様子

（3）関西語言学院進路相談会（in 京都）

日時：2024 年 7 月 12 日（金）
概要：関西語言学院主催の進路相談会に大学 43 校、専門学校 16 校が参加し、関西語言学院のほか、同系列の学校育英館大学別科・北洋大学別科の留学生を対象に相談会が行われた。高知大学に興味がある進学希望者が 30 名本学のブースを訪れた。訪問者一人一人に本学の教育組織、教育内容、入学試験等について説明を行い、また 8 月 3 日(土)・4 日(日)に開催されるオープンキャンパスについても紹介した。進学希望者から奨学金や卒業後の進路実績等についての質問があった。

高知大学ブース

会場の様子

（4）ジーベック外国人留学生のための進学相談会（in 岡山）

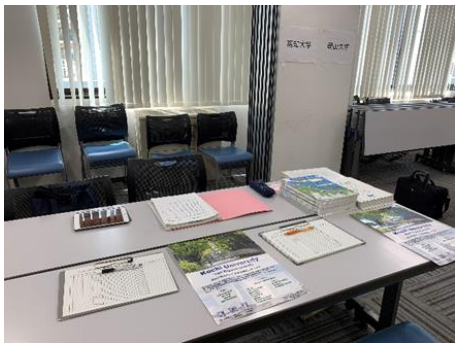
日時：2024 年 7 月 19 日（金）
概要：2024 年 7 月 19 日（金）に、岡山にて開催されたジーベック主催の外国人留学生のための進学相談会に大学 10 校、専門学校 13 校が参加し、岡山にある日本語学校の留学生を対象に進路相談会が行われた。高知大学に興味がある進学希望者が 19 名、日本語学校教員 4 名が本学のブースを訪れた。訪問者一人一人に本学の教育組織、教育内容、入学試験、その他大学の特色等について説明を行い、またオープンキャンパス等についても紹介した。留学生から奨学金のほか、過去問が入手可能かどうか、また合格ライン等についての質問があった。

高知大学ブース

会場の様子

（5） ECC 国際外語専門学校進学相談会（in 大阪）

日時：2024 年 7 月 27 日（土）
概要：ECC 外語専門学校主催の校内進学説明会に 39 校が参加し、留学生を対象に説明会が行われた。高知大学に興味がある進学希望者が５名本学のブースを訪れた。訪問者一人一人に本学の教育組織、教育内容、入学試験等について説明を行い、８月３日(土)・４日(日)に開催されるオープンキャンパスについても紹介した。進学希望者から奨学金や合格ライン、EJU の成績評価等についての質問があった。また、留学生の指導教員もブースに訪れ、高知大学の留学生受入れ方針や、採用人数を増やす方針があるかどうかに関する質問があった。さら、最近「情報科学」を志望する留学生が増えているとのことで、高知大学の当該専門の特徴についての質問もあった。



高知大学ブース

会場の様子

(6) 日本語学校訪問（in 東京）

日時：2024 年 8 月 1 日(木)14:00－15:30
訪問先：日本学生支援機構東京日本語教育センター
概要：

2024 年 8 月 1 日(木)に日本学生支援機構東京日本語教育センターを訪問し、主幹補佐の小池圭美先生に高知大学の大学紹介並びに入試に関して説明を行った。また、日本学生支援機構東京日本語教育センターの教育方針や学生の進学先についても情報を収集した。日本学生支援機構東京日本語教育センターの特徴としては、政府の日本語教育機関であるため、国費留学生の受入れがあり、原則バイトは禁止で寮が隣接しているため朝から晩まで勉学に集中できる環境が整えられている。文系志望者は首都圏の私立大学に行く学生が多く、理系志望者は地方の国立大学も含めて進学希望者が多いとのことなので、積極的に地方の国立大学への進学も指導しているとのことである。2023 年 4 月に本学の医学部に韓国人の留学生が入学しているが、彼女も国費留学生で優秀な学生だったとのことである。

学生に直接進学説明会をしてもらうのが良いとのことであったが、地方の国立大学はそれほど進学希望者が多くないので、オンラインも含めて日本留学試験が終了した 11 月末から日本語能力試験が終了した 12 月初旬にかけての開催を検討していくことになった。

日時：2024 年 8 月 2 日(金)10:00－11:00
訪問先：千駄ヶ谷日本語学校
概要：

2024 年 8 月 2 日(金)に千駄ヶ谷日本語学校を訪問し、平井理枝先生に高知大学の大学紹介並びに入試に関して説明を行った。また、千駄ヶ谷日本語学校の教育方針や学生の進学先についても情報を収集した。千駄ヶ谷日本語学校は、文部科学省認定の準備教育課程で、コロナ禍前の 2019 年度には在校生が 1,000 名を超えていたが、入国制限の影響で 2021 年度に 684 名、2022 年度に 542 名に減少した。その後、2023 年には 1,135 名になりコロナ禍以前よりも在校生が増加し、2024 年度は 1,200 名を超えたとのことだった。学生の進学先としては、知名度のある国立大学や私立大学をまず目指すが、理系志望者は自分の専門と成績に合っている地方の国立大学を希望する学生も多いとのことであった。2023 年 4 月に本学の理工学部に中国人の留学生が入学しているので、その学生に卒業生の進学経験談として説明会で話してもらえれば興味を持つ学生もいると考えられる。

また、学生に直接進学説明会をしてくれればとのことであったが、地方の国立大学はそれほど進学希望者が多くないが必ず何名かいるし、日本語教育研究所に在籍する大学院を志望する学生も含めて説明してほしいとのことであった。そこで、四国四県の国立大学のコンソーシアムを形成しオンラインも含めて日本留学試験が終了した 11 月末から日本語能力試験が終了した 12 月初旬にかけての開催を検討していくことになった。

日時：2024 年 8 月 2 日(金)13:00－14:30
訪問先：行知学園日本語学校
概要：

2024 年 8 月 2 日(金)に行知学園日本語学校を訪問し、徐仇先生ならびに魏佰蕾先生に高知大学の大学紹介並びに入試に関して説明を行った。また、行知学園日本語学校の教育方針や学生の進学先についても情報を収集した。行知学園日本語学校は、中国国内の 20 校あまりの国際学校と連携しており、現在 500 名の中国人留学生が在籍しているとのことであった。また、高田馬場校や行知学園第二附属日本語学校等の系列校を含めると 800 名ほどの学生を抱えているそうである。学生は学部進学者が 8 割で大学院進学者が 2 割を占め、学部進学者は文系、理系とも半々だそうだ。進学先としては、知名度のある国立大学や私立大学を希望するが、地方の国立大学も学費が安いので人気があるとのことであった。昨年度は本学の医学部を受験した学生がいたそうであるが、入学には至らなかったそうだ。

学生に直接進学説明会をしてほしいとのことであったが、地方の国立大学は二桁ほどの学生が志望するので、四国四県の国立大学のコンソーシアムを形成しオンラインも含めて日本留学試験が終了した 11 月末から日本語能力試験が終了した 12 月初旬にかけての開催を検討していくことになった。その際は、系列校 500 名に加え、系列の塾生 2,000 名にも呼びかけたいとのことであった。

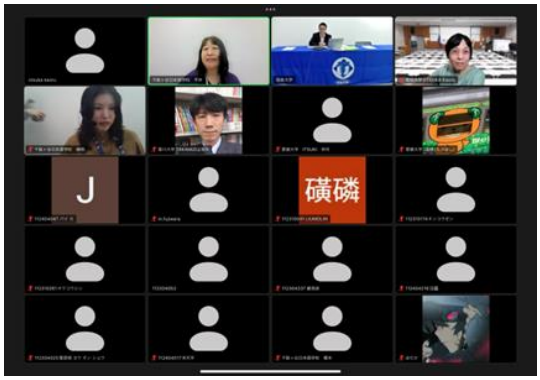
(7) 四国国立 4 大学合同進学説明会 in 千駄ヶ谷日本語学校（オンライン）

日時：2024 年 10 月 25 日(金)12:20－13:20
場所：Zoom
概要：

2024 年 10 月 25 日(金)に Zoom で四国国立 4 大学と千駄ヶ谷日本語学校を繋ぎ、合同進学説明会が行われ、千駄ヶ谷日本語学校ならびに系列校の日本語教育研究所の学生 23 名が参加した。まず、千駄ヶ谷日本語学校の日本語教育部専任講師の平井里枝先生のご挨拶の後、高知大学、香川大学、徳島大学、愛媛大学の順で大学紹介並びに入試に関する説明が 10 分間ずつ行われた。その後、大学ごとにブレイクアウトルームに分かれて、個別相談を実施した。

高知大学の 10 分間の説明の際、2023 年 4 月に理工学部に入学した中国人の留学生で千駄ヶ谷日本語学校を卒業した学生が、進学経験談として高知大学における勉強の環境や入試の科目、大学卒業後の就職先について説明してくれた。千駄ヶ谷日本語学校の学生は、先輩の生の声を聞き、本学に興味を持ったとのことであった。

また、ブレイクアウトルームに 3 名の学生が訪れ、理工学部の入試科目の配点や日本語の面接、日本留学試験の日本語の点数についての質問があった。



千駄ヶ谷日本語学校進学説明会の様子

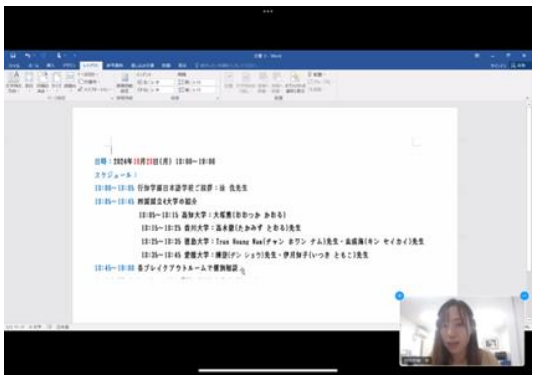
学生による進学経験談

(8) 四国国立 4 大学合同進学説明会 in 行知学園日本語学校（オンライン）

日時：2024 年 10 月 28 日(月)18:00－19:00
場所：Zoom
概要：

2024 年 10 月 28 日(月)に Zoom で四国国立 4 大学と行知学園日本語学校を繋ぎ、合同進学説明会が行われ、行知学園日本語学校ならびに系列校の学生 39 名が参加した。行知学園の李先生によるご挨拶及び進行に関する説明の後、高知大学、香川大学、徳島大学、愛媛大学の順で大学紹介並びに入試に関する説明が 10 分間ずつ行われた。その後、大学ごとにブレイクアウトルームに分かれて、個別相談を実施した。

本学のブレイクアウトルームには 3 名の学生が訪れ、農林海洋科学部の特色ならびに研究内容や医学部の入試や面接についての質問があり、池島副学長から詳細な説明が行われた。本学に興味を持ち、一人でも多くの留学生が受験してくれることを期待している。



行知学園日本語学校進学説明会の様子

ブレイクアウトルーム

4. 授業関連

4.1 グローバル教育支援センター開講日本語総合コース

2024年度日本語総合コース授業科目 第Ⅰ学期シラバス

＜朝倉キャンパス＞

Ⅰ．授業の概要

高知大学に在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。4 月第 3 週から始まり、科目名は日本語未修者で入門レベル対象の「基礎日本語Ⅰ」、日本語既習者で初級レベル対象の「基礎日本語Ⅱ」、「基礎日本語Ⅲ」、中級レベル対象の「初中級文型」、「初中級会話Ⅰ」、「中級聴解Ⅰ」、「中級会話Ⅰ」、「中級作文Ⅰ」、「中級漢字･語彙Ⅰ」、中上級レベル対象の「コミュニケーション日本語Ⅰ」である。

Ⅱ．授業レベルについて

入門レベルは初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

初級レベルは、引き続き初級前半の 4 技能の実力向上を図る。到達目標は「基礎日本語Ⅱ」は日本語能力試験 N5 レベル、「基礎日本語Ⅲ」は N4 レベルとする。

中級レベルは、初級修了レベルの学生を対象とし、中級前半から中級後半レベルへの 4 技能の実力向上を図る。到達目標は日本語能力試験 N2 レベルとする。

中上級レベルは、日本語能力試験 N2 レベルの学生を対象とし、上級レベルへの 4 技能の実力向上を図り、到達目標は日本語能力試験 N1 レベルとする。

Ⅲ．クラス内容

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
基礎日本語Ⅰ	大塚薫(火)・片山順子(金)	火・金曜日 2 限

授業内容：　①ひらがな、カタカナの読み、書き
②動詞のフォームを使った基本的な文型
③生活必須語彙･表現

使用教材：　『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第Ⅰ課～第 13 課　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク
『かな入門』

評価方法：　期末試験、課題・受講態度、出席

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
基礎日本語Ⅱ	林　翠芳	木曜日 3 限

授業内容：　初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。
初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。

使用教材：『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第 14 課～第 21 課　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法：　期末試験、課題・受講態度、出席

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
基礎日本語Ⅲ	林翠芳・大塚薫	火曜日 3 限

授業内容：　初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。
初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。

使用教材：『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第 20 課～第 25 課　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』第 26 課～第 28 課　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法：　期末試験、課題・受講態度、出席

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
初中級文型	片山　順子	月曜日 3 限

授業目標：　初級レベルの文型が適切に使えるようになる。新しい文型を身につけ、中級レベルの日本語学習に進む準備をする。初級文法を復習し、新しい文法を学習していく。短文作成に重点を置く。

テキスト：　ハンドアウト

評価方法：　出席・受講態度、課題、期末試験

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
初中級会話Ⅰ	大塚　薫	木曜日 2 限

授業目標：　身近な話題を通してきちんと伝える技術と表現を身につける。また、それぞれのテーマで話題となっている内容について自国の文化と比較し、ペアやグループで話し合い発表の能力を高めることを目標とする。

テキスト：　『マンガで学ぶ日本語表現と日本文化』アルク

評価方法：　最終発表、課題提出、出席・受講態度

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
中級聴解Ⅰ	尾中　美代子	火曜日Ⅰ限

授業目標：　日本語音声の特徴と聴解のストラテジーを学び、日常耳にする様々な音声を正しく理解できることを目標とする。

テキスト：　『毎日の聞きとり plus40』上巻・下巻　凡人社
『上級の力をつける聴解ストラテジー』上巻　凡人社

評価方法：　期末試験、課題・受講態度

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
中級会話Ⅰ	池　純子	水曜日２限

授業目標：　中級レベルの文型を使って、学校、娯楽、アルバイトなど日常生活の身近な話題について聞いて理解し、自分の表現したいことを適切に伝えることができるようになる。また、関心のある社会的な話題について討論し、自分の意見を論理的に言うことができるようになる。

テキスト：　ハンドアウト

評価方法：　期末試験、出席・受講態度、課題・発表

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
中級作文Ⅰ	池　純子	金曜日２限

授業目標：①初級で勉強した文法や表現を使って、正しい文を作ることができる。
②文と文のつながりを考えて、まとまった内容の文章をわかりやすく書けるようになる。
③レポートや発表スライド、メールなど目的の応じた文章を書けるようになる。

テキスト：　ハンドアウト

評価方法：　出席・受講態度、課題、期末試験

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
中級漢字・語彙Ⅰ	尾中　美代子	金曜日３限

授業目標：　日常生活でよく見る表示や文書などを使って、漢字（約 300 字）と漢字で書く言葉を学習する。

テキスト：『留学生のための漢字の教科書 中級 700［改訂版］』国書刊行会

評価方法：　出席・受講態度、課題、小テスト

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
コミュニケーション日本語Ⅰ	大塚　薫	木曜日３限

授業目標：　大学の講義・演習をこなすための日本語能力を習得するとともに、学生生活を送る上で必要なコミュニケーション能力を身に付け、考える力を養い、「スピーチ」、「討論」などの発信型スキルを伸ばすことを目標とする。また、就職活動に必要な日本語力を身につけるために、自己分析・企業研究・面接に必要な日本的マナーや話し言葉の日本語を習得する。

テキスト：『就職のための日本語』多楽園
『伸ばす！　就活能力・ビジネス日本語力』国書刊行会

評価方法：　最終発表、課題提出、出席・受講態度

＜物部キャンパス＞

Ⅰ．授業の概要

高知大学物部キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。4 月第 3 週から始まり、日本語未修者で入門レベル対象の「初級Ⅰ」、日本語入門を習得している学習者を対象とする「初級Ⅱ」、日本語既習者で日本語初級前半を習得した学生を対象とした「初級Ⅳ」を設ける。「初級Ⅰ」は週２コマ、「初級Ⅱ」と「初級Ⅳ」は週Ⅰコマである。

Ⅱ．授業レベルについて

「初級Ⅰ」は初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

「初級Ⅱ」は日本語入門を習得した学生を、「初級Ⅳ」は日本語初級前半を習得した学生を対象とする。そして、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は「初級Ⅱ」は日本語能力試験 N5 レベル、「初級Ⅳ」は日本語能力試験 N4 レベルとする。

Ⅲ．クラス内容

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
初級Ⅰ	石川　啓子	火曜日 2 限・木曜日 3 限

授業内容：　①ひらがな、カタカナの読み、書き
②動詞のフォームを使った基本的な文型
③生活必須語彙･表現

使用教材：　『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第Ⅰ課～第Ⅰ2 課　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク
『かな入門』

評価方法：　中間・期末試験、課題・受講態度、出席

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
初級Ⅱ	石川　啓子	木曜日 2 限

授業内容：　初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。
初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。

使用教材：　『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第 I3 課～第 20 課　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法：　期末試験、課題・受講態度、出席

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
初級Ⅳ	土橋　愛	火曜日Ⅰ限

授業内容：　初級前半の学習を終了した学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。

使用教材：　『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』 第 26 課～第 30 課　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法：　期末試験、課題・受講態度、出席

＜岡豊キャンパス＞

Ⅰ．授業の概要

高知大学岡豊キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。「日本語初級Ⅱ」、「日本語初級Ⅳ」を週Ⅰコマずつ設け、2024 年 4 月第 3 週から 7 月まで 15 週間開講する。

Ⅱ．授業レベルについて

「日本語初級Ⅱ」は、日本語入門を習得している学生を対象とし、「日本語初級Ⅳ」は、日本語初級前半を習得している学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。原則として留学生がいつ参加しても授業に主体性をもってかかわれる内容とする。到達目標は「日本語初級Ⅱ」は日本語能力試験 N5 レベル、「日本語初級Ⅳ」は日本語能力試験 N4 レベルとする。

Ⅲ．クラス内容

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時間***
日本語初級Ⅱ	今井　多衣子	木曜日 4 限

授業内容：　初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。初級前半の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。

使用教材：　『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第 13 課～第 21 課　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法：　期末試験、課題・受講態度、出席

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時間***
日本語初級Ⅳ	今井　多衣子	木曜日 5 限

授業内容：　初級前半の学習を習得している学習者に対し、継続して初級後半の日本語学習を行う。初級後半の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。

使用教材：　『みんなの日本語初級Ⅰ』第 23 課～第 25 課 スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅱ』第 26 課～第 35 課 スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法：　期末試験、課題・受講態度、出席

2024 年度日本語総合コース授業科目 第 2 学期シラバス

＜朝倉キャンパス＞

Ⅰ．授業の概要

高知大学朝倉キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。10 月第 1 週から始まり、科目名は入門レベルの「基礎日本語Ⅰ」、初級レベルの「基礎日本語Ⅱ」、初中級レベルの「初中級会話Ⅱ」、「初中級文法」、中級レベルの「中級読解」、「中級会話Ⅱ」、「中級漢字・語彙Ⅱ」、「中級聴解Ⅱ」、「中級作文Ⅱ」、中上級レベルの「コミュニケーション日本語Ⅱ」を設ける。

Ⅱ．授業レベルについて

入門レベルは初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

初級レベルは日本語初級前半を習得している学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N4 レベルとする。

中級レベルは、初級修了レベルの学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの 4 技能の実力アップを図る。到達目標は日本語能力試験 N2 レベルとする。

中上級レベルは、日本語能力試験 N2 レベルの学生を対象とし、上級レベルへの 4 技能の実力アップを図り、到達目標は日本語能力試験 N1 レベルとする。

Ⅲ．クラス内容

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時間***
基礎日本語Ⅰ	林翠芳(火)・大塚薫(金)	火曜日 2 限・金曜日 3 限

授業内容：　①ひらがな、カタカナの読み、書き
②動詞のフォームを使った基本的な文型
③生活必須語彙・表現

使用教材：　『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第 1 課～第 13 課　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク
『かな入門』

評価方法：　中間・期末試験、課題・受講態度、出席

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
基礎日本語Ⅱ	林翠芳･大塚薫	火曜日３限

授業内容：　初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。
初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。

使用教材：『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第 l4 課～第 25 課　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法：　期末試験、課題・受講態度、出席

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
初中級会話Ⅱ	池 純子	水曜日２限

授業内容：　初中級 (N3) ～中級レベル (N2) の文型を使って、自分の表現したいことをわかりやすく適切に相手に伝えることができるようになる。日常生活で出会う場面についてロールプレイしたり、興味関心のある話題について発表したり、グループで話し合ったりする。

使用教材：　ハンドアウト

評価方法：　出席・課題を含む受講態度、期末試験

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
初中級文法	池　純子	水曜日２限

授業内容：　初中級レベルの文型や類似表現の違いを学習し、より詳しく、適切な表現を使って会話をしたり作文を書いたりできるようになる。短い文章を読んで、その中に出てくる初中級 (N3) ～中級前半レベル (N2) の文法・文型や表現の使い方を学ぶ。

使用教材：　ハンドアウト

評価方法：　出席・課題を含む受講態度、期末試験

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
中級読解	吉田　鈴香	月曜日２限

授業内容：　正確に内容を把握し、自分が理解したことを他の人に伝えられるようになることを目指す。日本人や日本社会について書かれた文章を読む。自ら考えて答えることによって、正確に内容を把握できる力をつける。

テキスト：　ハンドアウト

評価方法：　出席・受講態度、課題、小テスト

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
中級会話Ⅱ	尾中 美代子	火曜日 1 限

授業内容： 会話の機能ごとにさまざまな表現を学び、場面や状況に応じて適切なコミュニケーションができるようになる。

テキスト： 『ロールプレイ玉手箱』ひつじ書房

評価方法： 受講態度、期末試験

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
中級漢字･語彙Ⅱ	片山 順子	水曜日 1 限

授業内容： 大学の授業や日常生活でよく使われる漢字と語彙を身につける。読解や文書作成に必要な漢字・語彙を学習する。学習した漢字を使って文を作る練習をする。小テストをしたり作文の宿題を出したりすることもある。

テキスト： ハンドアウト

評価方法： 期末試験、出席を含む受講態度、宿題・小テスト

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
中級聴解Ⅱ	林 翠芳	木曜日 3 限

授業内容： 会話場面におけるリスニング能力を高め、場面に応じて適切に話す能力を付けることを目標とする。

使用教材： 『聞いて覚える話し方　日本語生中継』中～上級編　くろしお出版

評価方法： 期末試験 or 発表、出席、課題・受講態度

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
中級作文Ⅱ	尾中 美代子	金曜日 3 限

授業内容： 文章作成に必要な基本事項を学び、さまざまな表現を使って目的に応じた文章が書けるようになる。

テキスト： ハンドアウト

評価方法： 受講態度・課題、期末試験

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
コミュニケーション日本語Ⅱ	林　翠芳	木曜日 2 限

授業内容： 大学の講義・演習をこなすための日本語能力を習得するとともに、学生生活を送る上で必要なコミュニケーション能力を身に付け、考える力を養い、「スピーチ」、「討論」などの発信型スキルを伸ばすことを目標とする。

テキスト： ハンドアウト

評価方法： 最終発表、課題提出、出席・受講態度

＜物部キャンパス＞

Ⅰ．授業の概要

高知大学物部キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。10 月第 1 週から始まり、日本語未習者を対象とする「初級Ⅰ」、日本語初級前半を習得している学習者を対象とする「初級Ⅲ」、日本語初級後半を習得した学習者を対象とする「初中級Ⅰ」、2024 年に来日した学生を対象とする「日本事情」を設ける。「初級Ⅰ」は週 2 コマ、「初級Ⅲ」「初中級Ⅰ」「日本事情」は週 1 コマである。

Ⅱ．授業レベルについて

「初級Ⅰ」は初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

「初級Ⅲ」は日本語初級前半を習得している学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N4 レベルとする。

「初中級Ⅰ」は日本語初級前半を習得した学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの 4 技能の向上を図る。到達目標は日本語能力試験 N3 レベルとする。

「日本事情」は、日本の生活に慣れていない学生を対象とし、高知県での生活環境に慣れ、今後生活していく上での様々な情報を習得し、地域の人々とも円満な関係を築けるようになることを目指す。

Ⅲ．クラス内容

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
初級Ⅰ	石川啓子	火曜日 2 限・木曜日 3 限

授業内容：①ひらがな、カタカナの読み、書き
②動詞のフォームを使った基本的な文型
③生活必須語彙・表現

使用教材：『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第 1 課～第 12 課 スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク
『かな入門』

評価方法：　中間・期末試験、課題・受講態度、小テスト

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
初級Ⅲ	石川　啓子	木曜日 2 限

授業内容：　初級前半を学習している学習者に対し、引き続き初級の日本語学習を行う。初級中級から後期にかけての基本的な文法、文型、語彙を習得し、日常的な場面での会話ができるようになる。

使用教材：『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第 13 課～第 21 課 スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法：　期末試験、課題・受講態度、小テスト

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
初中級Ⅰ	土橋 愛	火曜日 Ⅰ限

授業内容： 初中級前半の文型、語彙を学習し、話す力を中心に四技能の力をつけ、中級にスムーズに移行できるようにする。

使用教材：『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』第 31 課～第 35 課 スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法： 期末試験、課題・受講態度、出席

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時限***
日本事情	今井　多衣子	月曜日 3 限

授業内容：高知県及び高知市、南国市での生活環境に慣れ、印象深い日本文化体験をする。

① オリエンテーション、自己紹介、日本・高知県の紹介
② 路面電車に乗り高知市内の見どころ巡り
③ 南国市の生活ガイドの説明及び災害に関する情報学習
④ 四万十町(海洋堂ホビー館・岩本寺)へのバス旅行
⑤ 日本についての学習
⑥ 日本の正月体験
⑦ 日本事情の感想と各国事情との比較

使用教材：独自教材（ハンドアウト）

評価方法：課題、受講態度、出席

＜岡豊キャンパス＞

Ⅰ．授業の概要

高知大学岡豊キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。「日本語初級Ⅲ」、「日本語初中級Ⅰ」を週１コマずつ設け、2024 年 10 月第１週から 2025 年１月まで 15 週間開講する。

Ⅱ．授業レベルについて

「日本語初級Ⅲ」は、初級前半を学習した学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N4 レベルとする。

「日本語初中級Ⅰ」は、初級後半を習得した学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの４技能の向上を図る。到達目標は日本語能力試験 N3 レベルとする。

Ⅲ．クラス内容

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時間***
日本語初級Ⅲ	今井　多衣子	木曜日４限

授業内容：　初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。
初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。

使用教材：『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第 20 課～第 25 課　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳･文法解説』スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』第 26 課～第 32 課　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法：　期末試験、課題・受講態度、出席

授業科目	***担当講師名***	***曜日・時間***
日本語初中級Ⅰ	今井　多衣子	木曜日５限

授業内容：　中級の文型、語彙を学習し、読む力、書く力をつけ、日本語能力試験 N3 レベルを目指す。

使用教材：　『中級日本文法要点整理ポイント 20』スリーエーネットワーク

評価方法：　期末試験、課題・受講態度、出席

4.2 共通教育開講科目

(1) 地域文化理解（第 2 学期）

「地域文化理解」の授業は、第 2 学期に共通教育社会分野科目において開講された。本授業は事前・事後学習並びに体験学習を通して地域の現状や課題・地域の取り組みを理解し、多文化共生社会において、どのように地域振興を推進していくべきか、学生の目線から課題を見付け、その解決策を考え、地域の活性化を目指す地方創生への寄与を目的としている。また、このような一連の活動から得た学びを地域に還元する仕組みの構築を目指している。

2024 年度は、受講生 20 名（留学生 13 名・日本人学生 7 名）による国際共修授業が行われた。また、体験学習も体験先の協力を得てカリキュラム通り 3 回実施した。授業の前半は地域の現状及び課題を認識するため、講義で学ぶとともに、高校生や中山間地域住民との交流を中心とした体験学習が行われた。授業の後半では多文化共生社会における地域振興を中心に学びを深め、外国人社員を積極的に採用している県内企業を見学するとともに交流活動を通した体験活動が行われた。

受講生の終了アンケート評価の結果、一連の授業の活動の満足度は 5 段階評価中 4.7 で高評価を博した。本授業を通して受講生個々人が地域の現状や課題を認識し、自分事として地域との互恵関係の構築や多文化共生社会における地域振興・地方創生についての解決策を提案するに至ったと言える。

高知県立安芸高等学校生徒との交流の様子

株式会社土佐電子社員との交流の様子

大豊町にて餅つき体験

旧立川番所書院にて大豊町地元住民と記念写真

(2) サマープログラム (Japanese Studies I / II)

毎年恒例のサマープログラムが 2024 年 7 月に実施され、センターの教員である大塚教授、長野特任助教、シャープ准教授が企画・運営を行った。参加者は、高知大学の提携校であるチェコ共和国の南ボヘミア大学（1 名）、メキシコ（3 名）、英国のセントラルランカシャー大学（1 名）、米国のカリフォルニア州立大学フレスノ校（4 名）の学生であった。さらに、プログラムの後半の 2 週間には、タイのカセサート大学から 5 名の女子学生がグループに加わった。 参加学生は、Japanese Studies I/II の一環として、さまざまな活動を行い、それぞれの大学で単位を取得することができた。 プログラムには、大塚教授がコーディネーターを務めた日本語の授業が含まれ、16 コマ実施された。英国と米国からの参加者は、自国で事前に日本語を学んできたが、他の参加者は入門レベルだったため、3 クラスが設定された。そして、日本語クラスでは、授業内に高知大学の学生が言語サポートを行った。参加学生は言語学習に加え、生け花、折り紙、尺八、茶道、豆腐作り、剣道など日本の伝統文化を学ぶ実践的なワークショップに参加した。また、日本の学生たちとともに、牧野植物園、嶺北の棚田、赤岡の絵金祭、伊野の紙の博物館、大月町のゲストハウス COSA での宿泊体験など、県内のさまざまな場所を訪問した。大月町では、地元の海洋環境の研究と保全への取り組みについて学び、柏島でシュノーケリングを楽しみ、流しそうめんのイベントで地元の人々と交流した。全体を通して、本プログラムは参加者に大変好評で、大学の交流関係を維持する重要な手段となっている。

以下は参加者のコメントである。

The following are comments by participants

- I had a lot of fun and really enjoyed my time here
- I thought that all of the field trips that we took were very interesting and informative regarding local culture
- I have had fun a lot. Everything was amazing!
- Meet a lot of people with the same passions. Nice weather and nature spots. Good food and nice people.
- Visiting local non-touristic places, amazing friendly atmosphere, learning a lot of new things by fun way
- Because it's a funny and interesting experience.
- I had an amazing time at Kochi but two weeks are too short.
- It was very fun and I got to have a different experience than people who go to Tokyo. Also learned a lot of new phrases and met new friends.
- It was fun. It didn't feel like I was having to attend too many activities whilst still providing engaging experiences.
- I learn a lot in this month, we were in places that are not known by the tourists. I met a lot of nice people in Kochi
- Food in cafeteria is so cheap i love it
- I learned Japanese language first time that's so fun
- It was very fun and I enjoyed it so much. The places we visited as a group and activities that we did together was very fun and memorable.
- The Japanese students are really nice and kind. The activities are actually interesting.
- 課題、もしくは中間発表があると良いと思う。フィールドワークの振り返りができる機会を最終発表だけでなく、他にも作ると良いのではないか。茶道や尺八など、やるだけで終わってしまうアクティビティが何回かあったため、そこを改善できると良いと思う。
- Because I made a lot of friends. And I felt foreign culture and I experienced many things for the first time. Next year I'd like to join Japanese studies Ⅰ.
- I made many friends of foreign students. I can make my mind to learn English and other language more.
- It is very good experience for me. Because it's a chance to talk with foreigners and touch the foreign culture. Also, I wanna talk in English more!
- 色々な日本文化を体験したが、もし Field trip は高知城などより日本の感じがするところを連れて行ったらいいと思う。
- I could did a lot of experience. and the summer program is good for me to practice speaking English.留学の疑似体験ができた。
- I could make foreign friends and learn about languages and Kochi. It was really precious time for me.
- I really liked the program because of the activities and the colleagues who supported us.

(3) 短期留学プログラム（第 I 学期・第 2 学期）

「Short-term Study Abroad Program（短期留学プログラム）」は、海外における外国語学習及び異文化体験を通して、語学力の向上ならびに国際感覚の涵養を目指す海外実習を含む科目で、共通教育科目（集中講義）として開講された。渡航前に行う事前学習では、履修学生は滞在国の事情調査、渡航準備、基礎英会話などを学習するとともに、海外実習前の語学力を確認するためのアセスメントテストを実施した。海外実習では、学生は各自語学学校に通いながら、実践的外国語運用能力や異文化理解力を高めた。帰国後、事後学習として英語のアセスメントテスト、レポート及びプレゼンテーションによる学習成果の報告を行った。昨年度まで開講していた「グローバルコミュニケーション」を、2023 年第 I 学期より科目名「Short-term Study Abroad Program」に改め、学生が自身の希望・予算に応じて、幅広い選択肢の中から海外実習先を選択できるようにした。

<第 1 学期>

人文社会科学部、理工学部、農林海洋学部など 11 名の学生が履修した。2023 年 5 月～7 月にかけて事前学習を行い、8 月～9 月に履修学生はオーストラリア（ケアンズ）の Sun Pacific College、同国（メルボルン）の Albright Institute、ニュージーランド（オークランド）の New Zealand Language Centres、マレーシア（クアラルンプール）の ELC Malaysia に 3～4 週間の日程で各自留学した。

<第 2 学期>

人文社会科学部、医学部、農林海洋学部など 8 名の学生が履修した。2023 年 11 月～2024 年 1 月にかけて事前学習を行い、2～3 月に履修学生はオーストラリア（ブリスベン/ケアンズ、7 人）の Sun Pacific College、イギリス（ブライトン、2 人）の Oxford International English、ニュージーランド（オークランド）の New Zealand Language Centres、マレーシア（クアラルンプール）の ELC Malaysia、フィリピン（マニラ)、韓国（釜山外国語大学）に 2～6 週間の日程で各自留学した。

このプログラムを運営した経験から学んだことは、より良いプロモーションの必要性である。そこで 2024 年度からは、新入生が大学に入学する前に、このコースに関する情報を掲載したパンフレットを配布することにした。

(4) GEASC 共通教育科目コース

2024 年度には、センターが提供する英語による共通教育科目として、以下の科目が開講された。

- グローバル言語としての英語（第 1 学期、17 名）
- 英語の起源と進化（第 1 学期、16 名）
- 国際ジャーナリズムとメディア（第 2 学期、3 名）
- プロフェッショナル・コミュニケーションのための英語（第 2 学期、5 名）
- IELTS/TOEFL/英検準 1 級対策コース（第 1・2 学期）
- 短期留学プログラム（第 1・2 学期）
- 海外留学補習プログラム（第 1・2 学期）
- Japanese Studies I/II（第 2 学期、12/18 名）

また、第 1 学期には「異文化対応能力開発」コースが新たに導入された。（23 名）

(5) IELTS／TOEFL／英検準1級対策コース（第1学期・第2学期）

このコースは、2024年度第1学期には61名、第2学期には9名の学生が受講した。このコースのシラバスでは、試験作成者が用いるテクニックには多くの類似点があるという前提に基づき、複数の状況で応用できる一般的な試験対策スキルと戦略の指導に重点を置いている。そのようなテクニックの1つに、同義語や言い換え表現の使用を含む、さまざまな文章変換方法の使用がある。また、学期中、参加者は毎週オンラインで語彙学習の課題をこなす必要があった。なぜなら、特に英検では、受容的・生産的タスクの両方で語彙力が試されるからである。

第1学期にコースを受講した学生のEFセットテストのスコアは平均6%向上した（IELTSでは0.5の向上に相当）。

異文化対応能力の育成

学生にグローバルな視点を持つよう促し、海外留学を奨励するために、2023-24年度に異文化対応能力教育の新しいコースが導入された。主な目的は、グローバルな市民意識と調和を育むために、自国以外の文化に対する理解と共感を深めることである。参加学生は、個人およびグループでの一連の活動を通して、文化や異文化コミュニケーションに対する自身の考え方や態度、信念について振り返り、異文化対応能力を備えたグローバル市民となるための一歩を踏み出す。このコースは、短期または長期の海外留学、海外でのボランティア活動やインターンシップを計画している学生、あるいはグローバル市民として成長することに興味のある学生を対象としている。

このコースは主にMoodleを活用し、授業中、学生は以下のシラバスに基づく個人およびグループのアクティビティを行った。

1. ホフステードの文化オニオン
2. 異文化チェックリスト
3. 価値観チェックリスト
4. 文化の違いに対する非効果的な対応の認識
5. ステレオタイプの問題点とは？
6. 彼らは私たちについて何を理解する必要があるのか？
7. 事実、態度、行動
8. コミュニケーションの種類
9. ホフステードの次元
10. ボディランゲージの観察
11. カルチャーショックの認識
12. カルチャーショックのチェックリスト

13.異文化コミュニケーションスキルのチェックリスト

14.異文化で効果的な人材とは？

15.異文化に関する知識と理解

以下は、コースのアンケートに寄せられた学生のコメントの一部である。

・今まであまり気にしていなかった国の文化や日本との違いなどを知ることができ、視野が広がったと思う。自分の文化とは異なる文化に遭遇した時にどのように対応すればよいのか、どのようなことを意識すればよいのかを考えることができた。先生が親しみやすく、毎回授業が楽しかった。

・この授業を通して異文化理解に対して必要なポイントを学ぶことができたし、自分で調べ、文章にまとめることでより異文化理解について学びを深められたように感じた。また、Moodle 内で配布されている資料も興味深いものが多く、授業内で大いに活用することができ、さらに異文化理解についての関心が高まった。

・日本以外の国の文化に元々興味を持っていて学びたいことを学ぶことができたので、よかったし楽しく授業を受けることが出来た。また、授業はすべて英語なのでリスニング力やライティング力が少しは上がったかなと感じた。

・ただ異文化間の能力を開発するだけでなく英語のリスニング能力も向上したように感じた。異なる文化の人々と接する上で重要な態度や挨拶、文化を知ることができてよかったと思う。

5. その他

（1）外国人留学生在籍状況

〈令和6.5.1現在〉（as of May 1, 2024）

国名・地名／所属		国費									私費									合計		総計
		学部		修士		博士		研究生等		計	学部		修士		博士		研究生等		計			
		男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	
アジア	インドネシア				1	1				2			1			1	1	2	5	3	4	7
	バングラデシュ				1	2				3									0	2	1	3
	フィリピン				1	2	9			12						2			2	2	12	14
	マレーシア									0	4	6							10	4	6	10
	ミャンマー						1			1									0	0	1	1
	ネパール					1				1					2				2	3	0	3
	ロシア									0			1						1	1	0	1
	韓国		1							1	3		1		1				5	5	1	6
	中国								1	1	10	4	10	8		2	10	11	55	30	26	56
	台湾									0		1					4	7	12	4	8	12
中東	イラン									0				1		1			2	0	2	2
ヨーロッパ	スウェーデン									0							2		2	2	0	2
アフリカ	ガーナ									0				1	1				2	1	1	2
	ナミビア									0			1						1	1	0	1
	マリ									0					1				1	1	0	1
	モザンビーク									0			1						1	1	0	1
総計		0	1	0	3	6	10	0	1	21	17	11	15	10	5	6	17	20	101	60	62	122
学部	人文社会科学部									0	4	9					7	11	31	11	20	31
	教育学部								1	1							6	5	11	6	6	12
	理工学部									0	10	1							11	10	1	11
	医学部		1							1									0	0	1	1
	農林海洋科学部									0	3	1							4	3	1	4
	地域協働学部									0							1		1	1	0	1
大学院総合人間科学研究科	人文社会科学専攻									0			8	6			1	1	16	9	7	16
	理工学専攻									0			2	2					4	2	2	4
	医科学専攻									0			1	1					2	1	1	2
	看護学専攻				1					1									0	0	1	1
	農林海洋科学専攻				2					2			4	1			1	2	8	5	5	10
	地域協働学部学専攻									0									0	0	0	0
	スポーツ・芸術文化共創専攻									0									0	0	0	0
	応用自然科学専攻									0							1	1	2	1	1	2
	医学専攻					2				2					1	1			2	3	1	4
	黒潮圏総合科学専攻					2	9			11						4			4	2	13	15
	教職実践高度化専攻									0									0	0	0	0
愛媛大学大学院連合農学研究科						2	1			3					4	1			5	6	2	8
総計		0	1	0	3	6	10	0	1	21	17	11	15	10	5	6	17	20	101	60	62	122

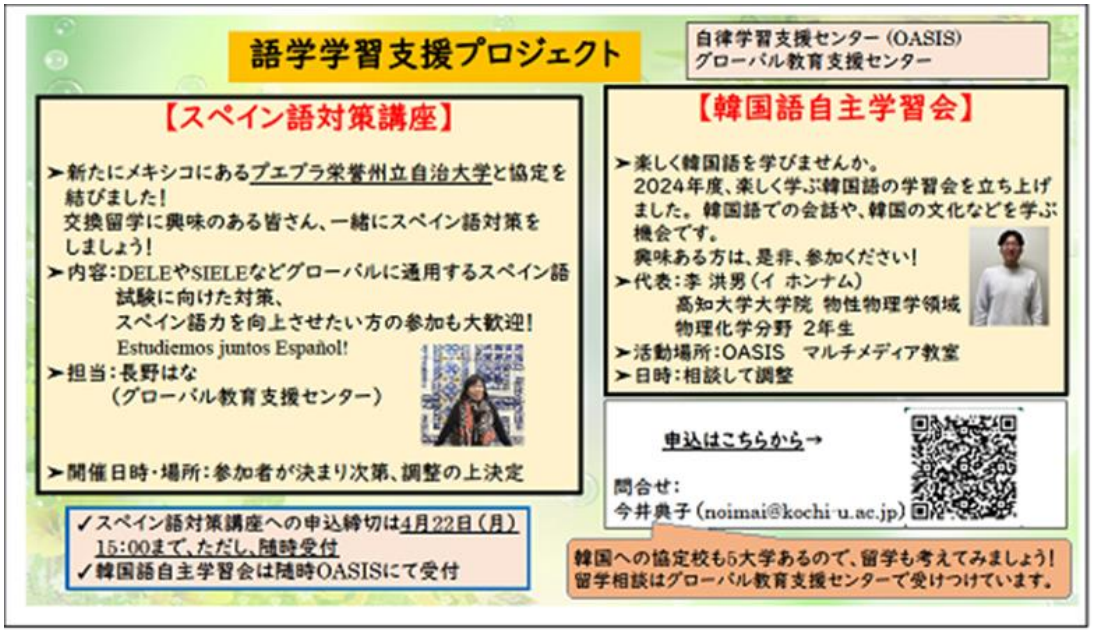
(2) 自律学習支援センター（OASIS）との連携

グローバル教育支援センターの設置（2022 年 10 月）を契機に、自律学習支援センター（OASIS）との連携体制の強化をこれまで進めてきた。OASIS はこれまで、IELTS 講座や TOEIC 講座、e ラーニングを活用した英語力向上プロジェクトをはじめ、留学生や海外の大学生との対面及びオンラインによるパートナーシップ・プログラムや交流会、セミナーなど、様々な取組を行っており実績が構築されている。そのため、このような活動を通じ、高知大学生の留学促進、及び留学生との交流によるキャンパスの国際化を共に協力しながら推進していくことが求められる。

現在、多くの留学生がパートナーシップ・プログラムや自主学習の場として OASIS を頻繁に利用している。また、OASIS の入り口の団欒スペースを活用して、日本人学生と留学生が集い、活発な交流ができている。これらの活動は、双方にとって学び合いの機会となり、キャンパスの国際化に大きく寄与していると考えられる。

これまでグローバル教育支援センターは、OASIS と協力し英語関連講座やセミナーの開催を積極的に行なってきた（資料 1～4 参照）。これらの取り組みは、「第 4 期中期目標・中期計画」で求められている、学生の語学力を強化し、学生の海外派遣数を増加させることに大いに関連する。その重要性は、グローバル教育支援センターが実施した、留学アンケート、及びオンラインスピーキングテストの結果からも明らかであり、留学を促進するためには、学生の語学力向上が不可欠であることを示している。2025 年度も、OASIS と連携を図った語学力向上講座、グローバルセミナーの開催を実施していく予定である。

資料 1 ： 語学力向上講座の案内（第 1 学期）



資料２　語学力向上講座の案内（第Ｉ学期）

資料３　開催セミナー

資料４　語学力向上講座の案内（第２学期）

（３）スペイン語試験対策講座

2024年6月、高知大学はメキシコ・プエブラ栄誉州立自治大学（BUAP）との協定を新たに締結した。同大学への交換留学を希望している学生を対象に、スペイン語試験対策講座を開講し、1学期に 6 日間（計 9 時間）の日程で実施した。本講座では、ライティング、スピーキングを中心に、BUAP への留学を希望する際に受験する必要のある検定試験対策を行なった。英語以外の言語の検定試験対策のための科目は高知大学では設けられていないが、2024 年度は学生の希望に沿って本講座を開講することとなった。講座には 4 名の学生が参加し、うち 1 名は BUAP の語学要件（CEFR B1レベル）を満たし、2025年1月から 1 年間同大学に交換留学している。また、もう 1 名の受講者は、メキシコ政府の奨学金を獲得し、2024年8月から 1 年間メキシコ国立自治大学に留学をしている。

参考資料

(1) 交流協定校一覧（大学間・部局間）

大学間協定一覧表（令和6年5月1日現在）

No.	相手先機関	国・地域名	締結年月日	協定内容	中心部局
1	プラビジャヤ大学	インドネシア	2003年2月28日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
2	タンジュンプラ大学	インドネシア	2010年2月1日	学術交流及び学生交流	地域協働学部
3	ボゴール農業大学	インドネシア	2007年3月1日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
4	リア外国語大学	インドネシア	2018年1月2日	学術交流及び学生交流	教育学部
5	スリウィジャヤ大学	インドネシア	2008年3月11日	学術交流	農林海洋科学部
6	釜山外国語大学校日本語大学	韓国	2024年4月29日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
7	国立慶尚大学校	韓国	2013年3月4日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
8	白石大学校	韓国	2010年3月25日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
9	明知大学校	韓国	2013年1月3日	学術交流及び学生交流	グローバル教育支援センター
10	韓瑞大学校	韓国	2003年7月23日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
11	東国大学校	韓国	2013年7月3日	学術交流及び学生交流	教育学部
12	チェンマイ大学	タイ	2013年2月12日	学術交流	農林海洋科学部
13	タマサート大学	タイ	2013年8月20日	学術交流及び学生交流	地域協働学部
14	ラジャマンガラエ科大学	タイ	2018年12月28日	学術交流	農林海洋科学部
15	コンケン大学	タイ	1997年3月27日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
16	カセサート大学	タイ	2000年5月1日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
17	国立高雄科技大学	台湾	2019年12月1日	学術交流及び学生交流	地域協働学部
18	国立台湾海洋大学	台湾	2022年12月6日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
19	国立中山大学	台湾	2007年5月14日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
20	中国文化大学	台湾	2010年1月20日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
21	東海大学	台湾	2007年10月18日	学術交流及び学生交流	教育学部
22	河南大学	中国	2006年4月10日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
23	揚州大学	中国	1997年3月10日	学術交流	農林海洋科学部
24	佳木斯大学	中国	2008年3月24日	学術交流及び学生交流	医学部
25	北京語言大学	中国	2023年1月6日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
26	南京航空航天大学	中国	2009年11月12日	学術交流及び学生交流	理工学部
27	北京外国語大学	中国	2013年6月21日	学術交流及び学生交流	グローバル教育支援センター
28	安徽大学	中国	2002年5月21日	学術交流及び学生交流	教育学部
29	天津師範大学	中国	2006年12月28日	学術交流及び学生交流	教育学部
30	上海海洋大学	中国	2010年10月15日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
31	東北大学秦皇島分校	中国	2015年4月15日	学術交流及び学生交流	教育学部
32	陝西科技大学	中国	2003年5月15日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
33	常州大学	中国	2011年12月19日	学術交流及び学生交流	理工学部
34	北京聯合大学	中国	2013年3月11日	学術交流及び学生交流	グローバル教育支援センター
35	ハルピン師範大学	中国	2023年11月7日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
36	カタンドゥアネス州立大学	フィリピン	2019年6月3日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
37	ビコール大学	フィリピン	2006年3月31日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
38	パタンガス州立大学	フィリピン	2020年3月16日	学術交流	黒潮圏総合科学専攻
39	フィリピン大学	フィリピン	2005年11月24日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
40	パルティド州立大学	フィリピン	2017年12月18日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
41	ビン大学	ベトナム	2018年3月29日	学術交流	農林海洋科学部
42	タイグエン大学	ベトナム	2015年3月25日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
43	ハノイ科学大学	ベトナム	2002年7月2日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
44	ハノイ国立教育大学	ベトナム	2006年1月6日	学術交流	農林海洋科学部
45	ハノイ科学工業大学	ベトナム	2012年11月1日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
46	ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア	2019年8月28日	学術交流	人文社会科学部
47	カリフォルニア州立大学フレズノ校	アメリカ	2009年10月22日	学術交流及び学生交流	グローバル教育支援センター
48	ロードアイランド大学	アメリカ	2015年6月17日	学術交流及び学生交流	土佐さきがけプログラム
49	サルティジョ工科大学	メキシコ	2003年9月9日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
50	国立ポリテクニク工科大学 応用研究所, サルティジョ校	メキシコ	2003年9月8日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
51	セントラル・ランカシャー大学	英国	2022年6月20日	学生交流	グローバル教育支援センター
52	サッサリ大学	イタリア	2023年3月13日	学術交流及び学生交流	地域協働学部
53	クラクフ工科大学	ポーランド	2019年11月29日	学術交流及び学生交流	地域協働学部
54	南ボヘミア大学	チェコ	1999年6月23日	学術交流及び学生交流	教育学部
55	インランドノルウェー応用科学大学	ノルウエー	2017年12月22日	学術交流及び学生交流	教育学部
56	マレーシアプトラ大学	マレーシア	2007年5月18日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
57	マレーシアサラワク大学	マレーシア	2009年11月24日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
58	ガーナ大学	ガーナ	2015年9月9日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
59	南マットグロッソ連邦大学	ブラジル	2012年3月13日	学術交流及び学生交流	医学部
60	カザフ国立大学	カザフスタン	2018年2月27日	学術交流及び学生交流	医学部
61	アイルランド王立外科医学院バーレーン医科大学	バーレーン	2013年3月21日	学術交流及び学生交流	医学部

部局間協定一覧表（令和6年5月1日現在）

No.	相手先機関	国・地域名	締結年月日	協定内容	締結部局
1	高雄大学人文社会科学部	台湾	2016年9月21日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
2	開南大学人文社会学院	台湾	2016年11月29日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
3	淡江大学外国語文学部	台湾	2019年8月3日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
4	イェーテボリ大学人文学部	スウェーデン	2021年2月22日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
5	樹人医護管理専科学校応用日本語学科	台湾	2018年1月9日	学術交流及び学生交流	教育学部
6	パレストラ体育スポーツ大学	チェコ	2016年1月26日	学術交流及び学生交流	教育学部
7	ウィーン大学教員教育センター	オーストリア	2019年12月5日	学術交流	教育学部
8	ユニバーシティ・カレッジ・コペンハーゲン	デンマーク	2016年8月15日	学術交流及び学生交流	教育学部
9	ユバスキュラ大学教育学部	フィンランド	2015年12月10日	学術交流及び学生交流	教育学部
10	ザカリアス・トペリウス学校	フィンランド	2020年7月8日	学術交流	教育学部、特別支援学校
11	シアクアラ大学	インドネシア	2018年9月7日	学術交流	理工学部
12	パドバ大学理学部	イタリア	2010年1月20日	学術交流	理工学部
13	ソンクラーナカリン大学医学部	タイ	2017年7月27日	学術交流及び学生交流	医学部
14	国立台湾大学医学部	台湾	2011年10月11日	学術交流及び学生交流	医学部
15	首都医科大学口腔医学院	中国	2004年10月28日	学術交流	医学部
16	ハワイ大学医学部	アメリカ	2010年2月10日	学術交流及び学生交流	医学部
17	マレーシアサインズ大学	マレーシア	2022年11月1日	学術交流	医学部
18	セメイ国立医科大学	カザフスタン	2018年2月21日	学術交流及び学生交流	医学部
19	タシュケント国立歯科大学	ウズベキスタン	2019年5月2日	学術交流及び学生交流	医学部
20	ディポネゴロ大学水産海洋科学部	インドネシア	2022年9月21日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
21	モナッシュ大学理学部	オーストラリア	2019年3月8日	学術交流	農林海洋科学部
22	ブータン王国農業局	ブータン	2019年8月26日	学術交流	農林海洋科学部
23	ラクイラ大学土木建設建築環境工学部	イタリア	2018年6月18日	学術交流及び学生交流	地域協働学部
24	フィリピン農業省漁業・水産資源局第2地域支所	フィリピン	2007年8月24日	学術交流	黒潮圏科学部門
25	韓国地質資源研究院石油海洋資源部	韓国	2007年8月8日	学術交流	海洋コア国際研究所
26	国立台湾大学地質科学科、海洋研究所、炭素理工学研究所	台湾	2023年9月19日	学術交流及び学術交流	海洋コア国際研究所
27	アイスランド大学地球科学研究所	アイスランド	2018年4月4日	学術交流	海洋コア国際研究所
28	ウルビノ大学数理物質科学部	イタリア	2022年7月6日	学術交流	海洋コア国際研究所

(2) 海外派遣学生一覧

2023 年度の交換留学については以下のとおりである。

【交換留学生（受入）】

2023 年4月～	6名	
2023 年7月～	5名	※
2023 年8月～	15名	※
2023 年10月～	26名	
2024 年1月～	1名	
2024 年2月～	2名	
合計	**55名**	

※は在留資格「短期滞在」での受入れ

【交換留学生（派遣）】

2023 年8月、9月～	8名
2023 年1月、2月、3月～	8名
合計	**16名**

令和６(2024) 年度

高知大学

グローバル教育支援センター年報

令和７（2025）年３月発行

高知大学グローバル教育支援センター
〒 780-8520　高知市曙町２丁目５番地１
global-education@kochi-u.ac.jp
☏ 088-844-8781